

2026年度（令和8年度）

町田市立南中学校 国語科 1年 年間指導計画及び評価規準

使用教科書：国語1（光村図書出版）・中学書写（教育出版）

年間授業時数：140時間

月	単元・章・教材名	時数	学習目標	学習活動	評価規準		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月	朝のリレー	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。</li> <li>言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>詩を通読する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>詩に登場する国や街がどんなところか、また、そこで、どんな人が何をしているのか、情景を想像しながら音読する。</li> </ul> </li> <li>詩を読んで想像したことや、好きな言葉や表現を交流する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>詩を読んで想像した情景や好きな言葉や表現などをグループで交流し、どのように音読すれば、詩のよさが伝わるかを相談する。</li> </ul> </li> <li>詩の特徴を生かして音読する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>詩のよさが伝わるように工夫して音読する。</li> </ul> </li> </ol> ◇グループで分担し、「リレー」形式で読む。	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫しながら音読している。		音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
4月	言葉に出会うために 野原はうたう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。</li> <li>言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	「言葉に出会うために」を読み、目次や「学びへの扉」を使って、中学校での国語学習の見通しをもつ。 <ol style="list-style-type: none"> <li>国語で何を学ぶのかを考える。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>「言葉に出会うために」を読み、国語を学ぶ意味や言葉の価値を考える。</li> </ul> </li> <li>「野原はうたう」の二つの詩を通読する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>詩の作者である生き物になったつもりで、情景や心情を想像しながら音読する。</li> <li>詩に表現された語句の意味に注意する。</li> </ul> </li> </ol> ◇気に入ったところに印をつけたり、線を引いたりしながら読む。 ◇詩人・工藤直子さんの「野原はうたう」に込めた思いを紹介する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを変えて音読する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>声の強弱や間の取り方などを変えることで、印象が変わることに気づく。</li> </ul> </li> <li>学習を振り返る。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>気に入ったところを、どのように音読したかをグループで話し合う。</li> <li>詩を音読するとき、どんな工夫をするとよいか、「音読をするときには」に続く形で書く。</li> </ul> </li> </ol>	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫している。 情景や心情を表す表現に応じて、音読のしかたを工夫している。		音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
4月	書き留める 言葉を調べる 続けてみよう	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。</li> <li>読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。</li> <li>目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>「言葉に出会うために」を読んで、「言葉」や「出会い」について語り合う。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>国語が思考や感性の礎となり、自分と世界をつなぐ言葉の力や、国語を学ぶ意義について考える。</li> </ul> </li> <li>ノート書き方、工夫のしかたを理解する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◇小学校のときのノートの取り方と比較する。</li> </ul> </li> <li>辞典・事典で言葉を調べる方法を理解する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>辞典・事典類の種類と特徴を確認し、何を調べるときに役立つかを理解する。</li> </ul> </li> <li>「言葉の手帳」を作る。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>印象に残った言葉や気になった言葉を、日付や感想とともに書き留</li> </ul> </li> </ol>	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。	「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 日常生活やこれまでに読んだ本の中から題材を決め、情報を整理している。	言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

			<p>めていくことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の言葉を書き込み、その言葉との出会いや意味、使い方などを書いて、友達と交流する。</li> </ul> <p>◇線や矢印を使って類義語や対義語を書いたり、用例を書いたりする。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とノートの交流をし、工夫できていることと改善点について話し合う。</li> </ul>	<p>これまでに読んだ本などを基に、印象に残った言葉を書き留めている。</p>			
4月	はじまりの風	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。</li> <li>・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<p>「目標」や「学びへの扉」でねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 作品を通読する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> </li> <li>2 作品の全体像を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・初読の感想を簡単にまとめる。</li> <li>・物語全体をいくつかの場面に分ける。</li> <li>・場面ごとに心情がわかる表現を挙げる。</li> </ul> </li> <li>3 心情の変化を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・レンの心情の変化を、図を用いて整理する。</li> </ul> </li> <li>4 整理した内容を基に話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで図を見せ合いながら、レンの心情の変化について話し合う。</li> </ul> </li> <li>5 学習を振り返る <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の展開に着目することで、何が捉えられたか、自分の言葉でまとめる。</li> </ul> </li> </ol>	<p>比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。</p>	<p>「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。</p>	<p>場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的にとらえ、学習の見通しをもって着目した表現や心情の変化について話し合おうとしている。</p>
5月	[聞く] 情報を的確に聞き取る	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。</li> <li>・目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。</li> <li>・必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> <li>・紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見を述べたりする。</li> </ul>	<p>リード文で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報を的確に聞き取る必要がある場面を挙げる。 <p>◇自分の体験などを基に、要点を押さえて書き留めることの大切さを理解する。</p> </li> <li>2 ①の連絡を聞き、メモを取る。</li> <li>3 効果的なメモの取り方を確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・①の連絡について、自分のメモと教科書の例を比べて、気づいたことを共有する。</li> <li>・「上達のポイント」でメモを取るときのポイントを確認する。</li> </ul> </li> <li>4 ②の連絡を聞き、メモを取る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・放送委員になったつもりで②の連絡を聞き、必要な情報をメモに取る。</li> </ul> </li> <li>5 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・メモを取る意義や、効果的なメモの取り方について理解することができたか。</li> </ul> </li> </ol>	<p>比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。5W1Hに注意して、キーワードとなる言葉を書き留め、番号や記号を用いて整理している。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。日常の話題について、情報を整理し、聞き取る内容を考えている。</p> <p>「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。</p> <p>情報を的確に聞き取り、要点を押さえてメモしている。</p>	<p>進んで記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、学習課題に沿ってメモを取ろうとしている。</p>
5月	音声の仕組みや働き	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 導入課題を使って、隣の席の人とA・Bをそれぞれ実際に声に出して言うてみる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらを言うか事前には明かさず、利き手側にどちらの意味で言っ</li> </ul> </li> </ol>	<p>音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。</p>		<p>声の出し方による伝わり方の違いを試行錯誤しながら確認</p>

			<p>んで読書をし、我が国の言語文化を大切に にして、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>たかを当てさせる。 2 「母音と子音」の説明を読み、日本語の音のしくみについて理解する。 ・子音があると声が出てくるまでの過程が母音と異なることを確かめる。 3 「音の高さ、強さ」の説明を読み、音の高さや強さによって、言葉を正確に届けることができるということを理解する。 ・アクセントについて導入の例を振り返らせる。 ・ペアワークによって実際に発話させて確かめさせる。</p>			<p>し、それらを生かして音声の働きや仕組みについて理解を深めようとしている。</p>
5月	<p>話の構成を工夫しよう 好きなことをスピーチで紹介する</p>	4	<p>・音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。 ・目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。 ・自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に にして、思いや考えを伝え合おうとする。 ・紹介など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。</p>	<p>「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 話題を決め、材料を選ぶ。 ・「自分の好きなこと(もの)」の中から、紹介したい話題を一つ選ぶ。 ・話そうと思っている内容について、友達に相談し、みんなに楽しんでもらえそうな材料を選ぶ。 2 話の構成を考える。 ・聞き手にとってわかりやすい話の順序を考え、制限時間に収まるように材料を取捨選択する。 ・構成案を基に、スピーチメモを作る。 3 スピーチの練習をする。 ・友達どうしで練習し、互いの改善点を助言し合う。 ◇話の内容・構成、声の大きさ・速さ・間の取り方を意識する。 4 スピーチの会を開く。 ・順番を決め、スピーチの会を開く。 ・視線を前に向け、聞き手の反応を見ながら話す。 5 学習を振り返る。 ・聞き手にとってわかりやすく、魅力的なスピーチをするために、どんなところに気をつけたか。</p>	<p>音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 聞き手を意識して話題を決め、話の内容を選んで整理している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。 聞き手を想定し、伝えたいことが明確になるように、構成を考え、話す順番を工夫している。</p>	<p>話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。</p>
5月	<p>漢字1 漢字の組み立てと部首漢字に親しもう1</p>	1	<p>・小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に にして、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 導入部分を読み、漢字の組み立てに興味をもつ。 ・漢字は、左右・上下・外側と内側などの二つの部分を組み立てたものが多いことを理解する。 2 偏旁冠脚について理解する。 3 部首の種類について理解する。 4 漢和辞典を利用して、練習問題に取り組む。 5 「漢字に親しもう1」の問題に取り組む。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べる。</p>	<p>小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。</p>		<p>学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>

					漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べている		
5月	ダイコンは大きな根？	2	<p>・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。</p> <p>・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。</p> <p>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。</p>	<p>「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 本文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> <p>2 文章の中心的な部分を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「問い」を投げかけている段落と、それに対する「答え」を示している段落を見つける。</li> <li>・二つの「問い」とその「答え」を、それぞれ短い言葉でまとめる。</li> </ul> <p>3 段落の役割について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・十の段落が、それぞれ文章全体の中でどんな役割を果たしているか考える。</li> <li>・「これに対して」などに注目し、その前後の文や段落が、どのようにつながっているかを考える。</li> </ul> <p>4 考えたことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすく説明するための筆者の工夫について、考えたことを発表する。</li> </ul> <p>◇題名の付け方、説明のしかた（問いと答え、比較、図など）に着目する。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章全体の中で、段落が果たす役割には、どのようなものがあったか挙げる。</li> <li>・わかりやすく説明するための工夫のうち、自分が文章を書くときに使ってみたいものを挙げる。</li> </ul>	<p>比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。</p> <p>本文中で比較がどのように使われているかを理解している。</p>	<p>「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。</p> <p>「問い」と「答え」から中心的な部分を捉え、筆者の主張を理解している。</p>	<p>文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、学習課題に沿って筆者の工夫を伝え合おうとしている。</p>
6月	ちょっと立ち止まって	3	<p>・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。</p> <p>・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。</p> <p>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>・説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。</p>	<p>「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 本文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> <li>・吹き出しを参考に、共感・納得したところや発見・気づき、疑問点等を挙げる。</li> </ul> <p>2 文章の構成に着目し、要旨を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を、大きく三つのまとまりに分け、本論を事例ごとのまとまりに分ける。</li> <li>・筆者の考え（結論）を基に、文章の要旨をまとめる。</li> </ul> <p>3 文章の構成に着目し、その効果を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本論の図が何を述べるために示されているかまとめる。</li> <li>・結論を導くために、序論と本論がどのような役割を果たしているかを考える。</li> <li>・「見る」ことに関する言葉を抜き出し、注目の度合いや、見る時間の長さの順に整理する。</li> </ul> <p>4 考えたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中で、ものの見方や考え方が広がったと思われる体験や事例を発表する。</li> </ul>	<p>原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。</p> <p>筆者の主張と事例との関係を理解している。</p>	<p>「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。</p> <p>序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えている。</p>	<p>進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。</p>

			<p>◇最初にもった疑問は解決したか、また学習の前には気づかなかった、新たな発見や疑問があれば、友達どうして報告する。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者は、なぜ私たちに「ちょっと立ち止まって、他の見方を試して」みることをすすめているのだろう。</li> </ul> <p>→「ちょっと立ち止まって」という語句を使って書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要旨の捉え方についてわかったことを、自分の言葉でまとめる。</li> </ul>			
6月	情報整理のレッスン 比較・分類	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul> <p>1 学習の目的を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入の文章を読み、目的に合わせて情報を整理することの必要性を理解する。</li> </ul> <p>2 情報を比較・分類する方法を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①比較する(表)、②分類する(ラベリング)、③分類して比較する(ベン図)、④順序や流れを整理する(フローチャート)を確認し、情報整理の目的と、それに適した方法を理解する。</li> </ul> <p>◇図や表で整理された情報を見て気づいたことを、「比較に用いる言葉」や「順序を表す言葉」を使って発表する。</p> <p>3 問題1～2に取り組む。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報はどのように整理するとわかりやすくなるか、目的ごとにまとめる</li> </ul>	<p>比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。</p> <p>情報の整理のしかたを理解し、情報を比較したり、分類したりしている。</p>		<p>学習課題に沿って、積極的に情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使おうとしている。</p>
6月	情報を整理して説明しよう わかりやすく書く	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。</li> <li>・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li> <li>・本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。</li> </ul> <p>「目標」や学習の流れで本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 目的や相手を明確にして題材を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おすすめの場所」を紹介することを確認し、目的と相手、説明する題材を決める。</li> </ul> <p>2 情報を集め、整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おすすめしたい場所」について説明したい事柄をマッピングの例を参考にして書き出す。</li> </ul> <p>3 構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように説明するとわかりやすいか考える。</li> <li>・説明のしかたや順序について、助言し合う。</li> </ul> <p>4 下書きをし、文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「説明の例」を参考に、400字程度で下書きをし、丁寧に清書する。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように情報を集め、整理したか。</li> <li>・わかりやすく伝えるために、構成をどう工夫したか。</li> </ul>	<p>比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。</p> <p>集めた情報を、観点に沿って比較したり、共通点を見つけて分類したりして整理している。</p>	<p>「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>目的や相手を意識して、情報を集めて整理し、説明の文章の構成を考えている。</p>	<p>集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明しようとしている。</p>
6月	指示する語句と接続する語句	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul> <p>1 例を使い学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例文を読み、「この」「その」の働きや、「では」「しかし」「つまり」の働きを確認する。</li> </ul> <p>2 現場指示の指示する語句について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な名称の代わりに、物や場所を指し示す言葉であることを理解させる。</li> </ul> <p>3 文脈指示の指示する語句について理解する。</p> <p>4 接続する語句の働きによる分類を理解する。</p> <p>5 「読むことに生かす 接続する語句に着目して読む」を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接続する語句に着目することで展開の予測や構成の把握ができるこ</li> </ul>	<p>指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。</p>		<p>今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。</p>

			とを確認する。 ◇適宜例文を上げたり、二人組で使わせたりして「指示する語句」の意味内容や指示対象と聞き手、話し手の距離の違いを実感させる。				
6月	空の詩三篇 さまざまな表現 技法	4	・事象や行為、心情を表す語句の量を表すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・根拠を明確にしながらか自分の考えが伝わる文章を作ることができる。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの技法を理解し使うことができる。	三つの詩を音読し、感じたことを交流する。 1 良さや面白さを感じたところや、どういうことだと思ったことを交流する 詩の情景や表現の効果について話し合う。 2 詩に書かれている情景について考えをもつ 3 最も印象に残った表現とその効果について話し合う 4 発表する 5 詩の創作に活かしたい表現について考える 空の詩を創作する。 6 教材の表現の工夫を参考にして詩を書く	・事象や行為、心情を表す語句の量を表すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの技法を理解し使っている。	「書くこと」において根拠を明確にしながらか自分の考えが伝わる文章を作ることができる。	詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。
6月	比喩で広がる言葉の世界	2	・比喩などの表現の技法を理解し使うことができる。 ・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。 ・説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたたりする。	「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 段落の役割を押さえて読み、内容を捉える。 ・「比喩」が、文中で、どのように定義されているかを確かめる。 ・筆者が挙げている比喩の二つの効果を具体例とともにまとめる。 3 言葉について考える。 ・図を説明し、比喩を使うかどうかで、表現にどんな違いが出るかを考える。 ・身の回りにある「比喩の発想」が活かされた言葉を見つけて、友達に報告する。 4 学習を振り返る。 ・比喩について理解し、言葉について考えを深めたことをまとめる。	比喩などの表現の技法を理解し使っている。 文中で使われている比喩の文脈上の意味を理解している。	「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 各段落の役割を理解し、要旨を捉えている。	進んで要旨を把握し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。
7月	文法への扉1 言葉のまとまり を考えよう	1	・単語の類別について理解することができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。	1 導入や教材文を読み、言葉のまとまりについて考える。 ・例文を音読し、間を取った箇所を確認する。 2 「言葉の単位」を読む。 ・「文法とは」を読み、文法の定義を理解する。 ・「言葉の単位」を読み、「文章・談話」「段落」「文」「文節」「単語」の違いと各々の特徴を理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解したことを確認する。 ・「読むことに生かす」を読み、段落に着目して読むことで、説明的な文章の内容や構成が捉えやすくなることを理解する。	単語の類別について理解している。文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。		単語の類別を理解するために、今までの学習を生かして、積極的にその前提となる言葉の単位について理解しようとしている。
7月	語彙を豊かに	1	・事象や行為、心情を表す語句の量を表すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。	1 リード文を読み、学習の見通しをもつ。 ・心情を的確に表現するためには、語句の量を増やす必要があることを理解させる。 2 印象に残ったできごとについて、その時の気持ちを一言で表す。 3 気持ちを表す言葉を集める。 4 気持ちにぴったりの言葉を選ぶ。 5 完成した文を読みあい交流する。 ・書き換えた文をグループで交流しあう。文から受けた印象や、どの表	・事象や行為、心情を表す語句の量を表すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。		今までの学習を活かして、積極的に事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、話や文章の中で使おうとしている。

			る。 現が具体的に想像しやすかったかを話し合わせる。 6 学習を振り返る。 ・ノートや自己評価カードなどに、気づいたことや学んだことを書かせる。	にしている。			
7月	情報収集の達人になろう	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。</li> <li>・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。</li> <li>・目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。</li> <li>・本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。</li> <li>・学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。</li> </ul>	<p>リード文や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 調べる内容を絞り込む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の何について調べるかを焦点化する。</li> </ul> <p>2 調べ方を考え、情報を集める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「やってみよう」に示された項目の調べ方を考え、その方法で有効な情報が得られるかどうか、学校図書館で確かめる。</li> <li>◇本の探し方や、本や事典、新聞から情報を集める方法を理解する。</li> <li>◇インターネット検索の方法と留意点を確認する。</li> <li>・自分が決めたテーマについて、どのように調べるのがよいかを考え、実際に情報を集める。</li> </ul> <p>3 情報を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフの種類や特徴、情報を読み取る方法を理解し、グラフを読むときの留意点を確認する。</li> <li>・「やってみよう」で、複数のグラフや文章の中の情報を関連づけながら読み解く。</li> </ul> <p>4 情報の適切な引用のしかたを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた情報を適切に引用しながら、わかったことや考えたことをまとめる。</li> <li>・出典の示し方に注意して「参考文献」を書く。</li> </ul> <p>5 著作権について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・著作権の定義や、著作者の許可が必要ない場合について確認する。</li> </ul> <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心のあるテーマを挙げ、どんな情報の調べ方が適しているかを考える。</li> <li>・どんな情報を伝えるのに、どんなグラフが示されているか、本や新聞から探して話し合う。</li> </ul>	<p>比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。</p> <p>グラフや文章の中の情報を関連づけて情報を整理し、引用のしかたや出典の示し方を理解している。</p>	<p>「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>調べたいテーマについて、本やインターネットを活用して情報を集め、整理し、伝えたいことを明らかにして書いている。</p> <p>「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。</p> <p>必要な情報に着目して要約し、内容を理解している。</p>	<p>引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、学習課題に沿ってそれらを使おうとしている。</p>
7月	読書を楽しむ	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<p>1 教材文を通読し、さまざまな読書活動を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本を読んだ後、記録をしたり、友達に紹介したりする学習活動について理解する。</li> </ul> <p>2 「ポップ作り」、「読書掲示板」、「読書記録」の中から、夏休みに行う活動を選ぶ。</p> <p>3 活動の内容に沿って、見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポップは、読書記録を基に本を決め、必要な情報を選択して、本の魅力が伝わるように紹介する。</li> <li>・読書掲示板は、選んだ生徒どうしで、感想を交流する本を一冊決めて感想を付箋などに書く。</li> <li>・読書記録は記録のしかたを確認する。</li> <li>◇教材文を基に、手順やポイントなどを示した活動計画書を用意し、配布する。</li> </ul> <p>4 ポップ、読書掲示板用の感想、読書記録を提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの活動で作成したポップや感想、記録した読書ノートなど</li> </ul>	<p>読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</p> <p>さまざまな読書の楽しみ方について理解し、読書が知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</p>	<p>読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。</p>	

			を夏休み明けに提出する。 ◇完成物は、教室や学校図書館に展示する。				
7月	本の中の中学生 あと少し、もう少し 西の魔女が死んだ 読書案内 本の世界を広げよう 読書コラム 本との出会い	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。</li> <li>・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行うことができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> <li>・学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。</li> </ul>	<p>リード文や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見直しをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「本の中の中学生」の三編の作品を読む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えていることや悩んでいることが似ている登場人物、友達になれそうな登場人物はいないか、探しながら読む。</li> <li>・「本の中の中学生」の三編の作品の中から気に入った作品とその理由を友達と共有する。</li> </ul> </li> <li>2 学校図書館などを利用して、「本の中の中学生」というテーマで一冊選び、推薦文を書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生が登場する小説や実在の人物の中学時代を描いたノンフィクションなどから一冊選ぶ。</li> <li>・展示したり、スピーチをしたりして、感想を付箋に書き、友達と感想を交流する。</li> </ul> </li> </ol> <p>◇前時の「読書を楽しむ」と合わせて指導することも考えられる。</p>	<p>読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</p> <p>読書が、知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</p>	<p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行っている。</p> <p>文章を読み、理解したことを基に、自分の考えを形成している。</p>	<p>文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確かなものにし、学習課題に沿って本を読んで考えたことを伝え合おうとしている。</p>
9月	大人になれなかった弟たちに……	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。</li> <li>・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> <li>・物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。</li> </ul>	<p>「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見直しをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 作品を通読する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> </li> <li>2 描写に着目して登場人物の心情を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「母」が食べ物をあまり食べなかったり、「僕」が「ヒロユキ」のミルクを盗み飲みしてしまった理由を確かめる。</li> <li>・提示された部分から「僕」や「母」の気持ちを考える。</li> </ul> </li> </ol> <p>◇提示された部分以外にも、登場人物の心情がわかる描写に線を引き、心情を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3 題名のもつ意味について考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の時代背景を踏まえて、題名のもつ意味について話し合う。</li> </ul> </li> <li>4 表記に込められた、作者の意図を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ヒロユキ」や「ヒロシマ」「ナガサキ」を片仮名表記にした、作者の意図を考える。</li> </ul> </li> <li>5 思いを伝える朗読会をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み取ったことを踏まえ、場面の様子や登場人物の心情がより伝わるように読む。</li> </ul> </li> <li>6 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・描写に着目することで、どんなことが読み取れたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・関連する本を読んで、さらに考えが深まったことを挙げる。</li> </ul> </li> </ol>	<p>読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</p> <p>戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解している。</p>	<p>「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。</p> <p>描写に着目して、登場人物の行動や心情の変化を捉えている。</p>	<p>登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見直しをもって朗読しようとしている。</p>
9月	星の花が降るころに	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。</li> <li>・場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈することができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<p>「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見直しをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 作品を通読する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> </li> <li>2 「私」を中心に作品の内容を押さえる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・時や場所、登場人物の組み合わせなどに注意して、作品をいくつかの場面に分ける。</li> <li>・場面の展開に沿って、「私」の気持ちの変化を表などにまとめる。</li> </ul> </li> </ol>	<p>比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解している。</p> <p>様子や動きを何かにしたとえた表現を探し、どのような情景や気持ちをとえているのか考えている。</p>	<p>「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。</p> <p>場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を</p>	<p>進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、学習の見直しをもって考えを伝え合おうとしている。</p>

			<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。</li> </ul>	<p>3 場面や描写を結び付けて読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提示された場面や描写を比べることで、どんなことが読み取れるか、話し合う。</li> <li>・「雪が降るように」のように、様子や動きを何かにたとえた表現を探し、どんな情景や気持ちを表しているか考える。</li> </ul> <p>4 印象に残った場面や描写を語り合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・印象に残った箇所やその理由をグループで述べ合う。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の場面や描写を結び付けて読むと、どんなことが見えてきたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・読み取ったことを踏まえ、この後、作品がどう続いていくかを考えて書く。</li> </ul>		読み深めている。	
9月	項目を立てて書く 案内文を書く	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。</li> <li>・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。</li> <li>・行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。</li> </ul>	<p>「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 案内文の書き方を確かめる。</p> <p>◇学校で配布された「お知らせ」や、行事のポスターなど、身の回りの案内文を参考にさせる。</p> <p>2 案内する事柄と相手を決め、情報を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱コンクールの案内を参考に考える。</li> </ul> <p>◇相手の立場に立って情報を選び、項目を立てて整理する。</p> <p>3 案内文を作成する。</p> <p>◇相手にわかりやすいよう、項目の順序や表現を工夫する。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した案内文について、友達と工夫したところを伝え合い、改善点を助言し合う。</li> </ul>	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。情報を項目ごとに整理することを理解し、案内文の作成に生かしている。	「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。伝えたい事柄・相手に応じて、必要な情報が明確に伝わるように、項目ごとに整理して案内文を書いている。	集めた材料を積極的に整理し、学習課題に沿って案内文を書くとしている。
9月	[推敲] 読み手の立場に立つ	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</li> <li>・読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。</li> <li>・行事の案内を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。</li> </ul>	<p>リード文や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 読み手の立場に立って、案内文を推敲する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・案内文を参考に、地域の人に向けた体育祭の案内を書き改める。</li> <li>・必要に応じて情報を補ったり、削ったりする。</li> </ul> <p>2 書きかえた案内文について、伝えようとする内容が正確に、わかりやすく書き表されているか、友達と話し合う。</p> <p>◇大事な情報が抜け落ちていないか、確認をする。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・案内文の推敲で、どんなことが大切かまとめる。</li> </ul>	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。読み手の立場に立って、誤記はないか、表現は適切か、伝える情報が正確にわかりやすく書けているかななどを検討している。	粘り強く文章を整え、学習課題に沿って案内文を推敲しようとしている。
9月	言葉 4 方言と共通語	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通語と方言の果たす役割について理解することができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<p>1 導入の課題に取り組み、地域による言葉の違いについて関心をもつ。</p> <p>2 教材文を読み、方言と共通語の違いを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語句・表現・文法・発音の違い。</li> <li>・共通語の必要性。</li> </ul> <p>3 「生活に生かす」を読み、方言と共通語のそれぞれの役割や特徴について理解する。</p>	共通語と方言の果たす役割について理解している。共通語と方言の役割や特徴について理解している。		今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。
10	聞き上手になる	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声の働きや仕組みについて、理解を</li> </ul>	「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しを	音声の働きや仕組み	「話すこと・聞くこ	進んで記録したり質

月	う 質問で話を引き出す		<p>深めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li> <li>・紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。</li> </ul>	<p>もつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 きき方の工夫や質問の種類を知る。</li> <li>2 「きき方の工夫」と「質問の種類」を読み、林さんへの質問を考える。</li> <li>3 「夏休みのいちばんの思い出」をテーマに、対話の練習をする。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人一組になり、話し手と聞き手に分かれる。</li> <li>・話し手がテーマについてスピーチをする。</li> <li>・聞き手はきき方や質問のしかたを工夫し、質問で話を引き出す。三往復以上のやり取りをする。</li> <li>・役割を替えて繰り返す。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>3 学習を振り返る。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようにきき方の工夫をしたか、また話し手にどんな質問をし、どんなことを引き出せたか。聞き上手になるための秘訣をまとめる。</li> </ul>	<p>について、理解を深めている。</p> <p>話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。</p>	<p>と」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。</p> <p>話し手のスピーチに耳を傾け、聞いたことを基に、質問のしかたを工夫して聞き、対話をしながら話を十分に理解しようとしている。</p>	<p>問したりしながら、話の内容を捉え、今までの学習を生かして話を引き出そうとしている。</p>
10月	漢字 2 漢字の音訓 漢字に親しもう 2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 導入部分を読み、漢字の読みには「音」と「訓」があることを理解する。</li> <li>2 「音」と「訓」の歴史や性質を理解する。</li> <li>3 複数の読みがある漢字や熟語について考える。</li> </ol> <p>◇漢和辞典を利用して、練習問題に取り組む。</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べる。</p>	<p>小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。</p> <p>漢字の音・訓について理解し、熟語を正しく読んだり、同じ熟語の音・訓の読み方を使って短い文を作ったりしている。</p>		<p>学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
10月	「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。</li> <li>・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li> <li>・記録の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。</li> </ul>	<p>「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本文を通読する。</li> <li>2 文章の構成と内容を捉える。</li> <li>3 論の展開に着目し、その効果を考える。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> <li>・本文を5つの部分に分ける。</li> <li>・筆者がどのような事実を基に、どのような仮説を立てたかを確かめる。</li> </ul> <p>◇事実を示す文末表現と、仮説を述べるときの文末表現の違いに着目する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「仮説・仮定・予想」「検証・証明・裏づけ」の言葉の意味や使い方の違いを考える。</li> </ul>	<p>原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。</p> <p>筆者がどのような事実を基にどのような仮説を立てたかについて、理解している。</p>	<p>「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。</p> <p>筆者の意見と、それを支える根拠との関係を考えている。</p>	<p>文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮説の検証1・2について、観点を立てて、表にまとめる。</li> <li>・なぜ仮説が証明されたといえるか、表を基に話し合う。</li> </ul> <p>4 結論に説得力をもたせるために、どのような工夫をしているか、本文の記述や図表などを根拠として、自分の考えを文章にまとめる。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の論の展開の特徴を説明する。</li> </ul> <p>→「事実と意見」という言葉を使って書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説得力のある文章を書くために使ってみたい工夫を挙げる。</li> </ul>				
10月	思考のレッスン1 意見と根拠	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<p>1 例題や問題1から、原因と結果を抜き出し、どのようにつながっているかを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原因と結果を表す言葉を例文から抜き出す。</li> </ul> <p>2 例題や問題2から、原因と結果のつながりに無理がある例を確かめ、パターン別に整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「単なる偶然」「逆の因果関係」「疑似相関」について、筋道の上での問題点を指摘する。</li> </ul> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の筋道を理解するには、原因と結果の関係を捉えることが大切だということを確認する。</li> </ul>	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 原因と結果がどうつながっているかを整理し、二つの関係について理解している。		今までの学習を生かして、積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。
10月	根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。</li> <li>・書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。</li> <li>・根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul> <p>本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。</p>	<p>「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 課題を決め、調査を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生に関する調査の課題を決める。</li> <li>・課題に対して仮説を立て、仮説を証明する方法を考えて調査項目を決め、調査する。</li> </ul> <p>2 調査結果を整理し、構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査結果を整理し、得られた情報を正確に捉えて分析し、そこから何がいえるかを考える。</li> <li>・書く内容を決め、全体の構成を考える。</li> </ul> <p>◇「情報整理のレッスン 比較・分類」を再読し、情報の分類・比較のしかた、順序や流れの整理のしかたを確認する。</p> <p>◇『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」での学びを生かし、調査の結果と、結果に基づく考察・解釈のつながりを確かめる。</p> <p>3 図表などを引用してレポートを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えに説得力をもたせるために資料を引用し、レポートの構成に沿ってまとめる。</li> </ul> <p>◇引用のしかたや出典の示し方を確認する。</p> <p>4 レポートを読み、評価し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの内容や構成、文章や図表の引用のしかたなどについて、説得力があると思った点や、もっと詳しく知りたいと思ったことを伝え合う。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を明らかにして、説得力のある文章を書くことができたか。</li> <li>・さまざまな情報を整理できたか。</li> </ul>	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 情報を整理し、自分の考えを裏づける資料やデータを選び、出典の示し方に気をつけながら引用している。	「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。 自分の考えに説得力をもたせるようなレポートの構成を考えている。 「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 自分の考えを裏づける資料やデータを選び、アンケートで得られた情報を適切に関連づけて、考察を導き出している。	文章の構成や展開を粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。
10月	漢字に親しもう 3	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち</li> </ul>	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べる。</p>	小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしよう

			<p>300 字程度から 400 字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち 900 字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>		<p>示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち 300 字程度から 400 字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち 900 字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。</p> <p>小学校で学習した漢字を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。</p>		<p>としている。</p>
10 月	文法への扉 2 言葉の関係を考えよう	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語の類別について理解することができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 導入や教材文を読み、言葉の関係について考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすく伝えるためには文節どうしの関係を理解する必要があることに気づく。</li> </ul> </li> <li>2 文法 2「文の組み立て」を読み、「文節どうしの関係」「連文節」「文の組み立て」を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・下段の練習問題に取り組み、理解したことを確認する。</li> <li>・「書くことに生かす」を読み、あいまいな文の推敲に生かせることを知る。</li> </ul> </li> </ol>	<p>単語の類別について理解している。</p> <p>「文節どうしの関係」「連文節」「文の組み立て」について、理解を深めている。</p>		<p>単語の類別を理解するために、今までの学習を生かして、積極的にその前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。</p>
10 月	音読を楽しもう 大阿蘇	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</li> <li>・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<p>リード文や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返しの表現や、繰り返しながら変化していく表現などに注目する。</li> <li>・新出漢字を調べる。</li> </ul> </li> </ol>	<p>事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>詩の言葉がどのように使われているか考えて、朗読をしている。</p>	<p>「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。</p> <p>繰り返しの表現や繰り返しながら変化している表現などに着目しながら考えている。</p>	<p>進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして朗読しようとしている。</p>
11 月	音読を楽しもう いろは歌 古典の世界	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。</li> <li>・古典にはさまざまな種類の作品があることを知るることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「いろは歌」を音読する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムを味わいながら繰り返し音読する。</li> <li>・三段目の現代語訳と関連付けながら読む。</li> </ul> </li> <li>2 「古典の世界」を読み、3 年間の古典学習について見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌や物語、随筆など、3 年間でさまざまな古典作品にふれることを知る。</li> </ul> </li> </ol>	<p>音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。</p> <p>言葉の調子や間の取り方などを意識して音読している。</p> <p>古典にはさまざまな</p>		<p>古典にはさまざまな種類の作品があることを積極的に知り、今までの学習を生かして古文を音読しようとしている。</p>

					種類の作品があることを知っている。 小学校から親しんできた古典の作品を思い起こし、古典にはさまざまな種類の作品があることを理解している。		
11月	蓬萊の玉の枝 ——「竹取物語」から	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。</li> <li>場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。</li> <li>言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> <li>物語などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。</li> </ul>	<p>「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>作品を通読する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の文章を、リズムを味わいながら繰り返し音読する</li> <li>新出漢字を調べる。</li> </ul> </li> <li>古典の文章について、現代の文章との違いを確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>仮名遣いの違いを確かめる。</li> <li>文末の言葉の違いを確かめる。</li> <li>現代とは違う意味で使われている言葉や、現代では使われなくなった言葉の意味を確かめる。</li> </ul> </li> <li>描かれている古典の世界を想像する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の思いや行動を書き出し、現代の自分たちの考えや行動と通じるところを探す。</li> </ul> </li> <li>学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>現代の文章と古典とを比べ、どんな違いに気がついたか挙げる。</li> <li>古典の物語を読んで、興味をもったことや、もっと知りたいことを、友達と伝え合う。</li> </ul> </li> </ol>	音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 音読に必要な文語のきまり、古文特有のリズムについて理解し、その世界に親しんでいる。	「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の関係や思いに着目して読み、現代の自分たちと比べ、古典の世界と現代の人々に共通する部分を考えている。	進んで古文を音読し、学習課題に沿って描かれている古典の世界を想像しようとしている。
11月	今に生きる言葉 〔書く〕 故事成語を使って体験文を書こう	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。</li> <li>文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行うことができる。</li> <li>書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。</li> <li>言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> <li>漢文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。</li> <li>本や資料から文章を引用して説明するなど、事実やそれを基に考えたことを書く。</li> </ul>	<p>「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>漢文を音読し、独特のリズムや言い回しに親しむ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「矛盾」上段の漢文を繰り返し音読し、読み慣れる。</li> <li>新出漢字を調べる。</li> </ul> </li> <li>本文を読み、故事成語について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「矛盾」がどんな故事に由来し、どんな意味で使われるようになったかを説明する。</li> <li>「推敲」「蛇足」「四面楚歌」の言葉の意味や、基になった故事を調べる。</li> </ul> </li> </ol> <p>◇漢和辞典、故事成語辞典、国語便覧等を使用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>故事成語を使って、体験文を書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>手順に沿い、「矛盾」と自分の体験を結び付けた短い文章を書く。</li> </ul> </li> <li>学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>音読の中で気づいた、漢文独特の言い回しを挙げる。</li> <li>挙げられている故事成語は、日常生活の中でどのように使われているか考える。</li> </ul> </li> </ol>	音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 音読に必要な文語のきまり、漢文特有のリズムや言い回しなどについて理解している。	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行っている。 「矛盾」や、「推敲」「蛇足」「四面楚歌」の基になった故事を調べ、どんな意味に使われるようになったかを説明している。 「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。 「矛盾」と自分の体験とを重ねて、書く内容の中心が明確になるように文章の展開や	積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。

						構成を考えている。	
11月	楷書で書こう	4	・楷書の基本点画の筆使いと字形を理解して書くことができる。	・毛筆で「天地」「成功」を書く。	基本点画の筆使いや文字の組み立て方、字形の整え方を理解している。	基本点画の筆使いや文字の組み立て方を確認している。	基本点画を理解しながら、学習課題を正しく把握しようとしている。
11月	楷書と仮名を調和させて書こう	2	・平仮名の筆使い、字形を理解して書くことができる。	・毛筆、楷書で「いろは歌」を書く。 ・毛筆、仮名でいろは歌を書く。	楷書に調和する仮名の筆使い、字形を理解している。	楷書に調和する仮名の筆使い、字形について考えている。	楷書に調和する仮名の書き方を習得しようとしている。
11月～12月	行書で書いてみよう	6	・行書の筆使いを理解して書くことができる。	・毛筆、行書で「大木」「栄光」「平和」を書く。	点画の連続・省略・形の変化を理解している。	点画の連続・省略・形の変化を確かめ、自己の課題を考えている。	点画の連続・省略・形の変化について課題意識をもって取り組んでいる。
12月	「不便」の価値を見つめ直す [書く] 根拠を明確にして、意見をまとめよう	4	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。 ・目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする事ができる。 ・根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 ・説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。 ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。	「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見直しをもつ。 1 本文を通読し、内容を捉える。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・筆者の定義する「不便益」を確かめる。 ・「不便のよい面」「便利の悪い面」について整理する。 2 筆者の考えを要約する。 ・読んだことがない人に説明するつもりで、筆者の考えを200字程度で要約する。 ・友達どうしで要約を読み合い、助言し合う。 3 根拠を明確にして、意見をまとめる。 ・教科書の条件に沿って自分の考えを書く。 4 学習を振り返る。 ・「不便の価値」のように、固定観念にとらわれずに考えたとき、価値が見いだせるものを挙げる。 ・日常生活や他教科の学習の中で、要約が役立てられる場面を考えてみる。	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 意見と根拠の関係に着目して、必要な情報を取り出し、整理している。 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 要約するための情報の整理のしかたを理解し、自分の考えをまとめるときに要約や引用を明確に示している。	「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。 目的に沿って必要な情報を結び付け、要約している。 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。 賛成か反対か、立場を明確にして、筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。 「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 立場を明確にして、自分の考えの根拠となる事例を挙げなが、意見をまとめて書いていく。	積極的に必要な情報に着目して要約し、自分の考えを文章にまとめようとしている。
12月	思考のレッスン2 原因と結果	1	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	1 例題や問題1から、原因と結果を抜き出し、どのようにつながっているかを整理する。 ・原因と結果を表す言葉を例文から抜き出す。 2 例題や問題2から、原因と結果のつながりに無理がある例を確かめ、パターン別に整理する。 ・「単なる偶然」「逆の因果関係」「疑似相関」について、筋道の上での問題点を指摘する。	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 原因と結果がどうつながっているかを整理し、二つの関係につい		今までの学習を生かして、積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。

			<p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の筋道を理解するには、原因と結果の関係を捉えることが大切だということを確認する。</li> </ul>	て理解している。			
12月	漢字に親しもう 4	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べる。</p>	<p>小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。</p> <p>小学校で学習した漢字を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。</p>		<p>学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
12月	[話し合い] 進め方について 考えよう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。</li> <li>・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li> <li>・互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。</li> </ul>	<p>リード文や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 教材文を読み、「登山研修の思い出」についての展示内容の話し合いであるという目的を確認する。</p> <p>2 話し合いの例文を聞き、空欄①②に当てはまる言葉を検討する。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話題や流れを捉えて議論するためには、どのようなことに気をつければよいか、考えることができたか。</li> </ul>	<p>意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。</p> <p>「上達のポイント」にある「根拠を述べる」「前の人の意見を受けて話す」「自分の意見と比較しながら聞く」「意見を整理する」「話がそれたときは元の話題に戻す」を理解している。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。</p> <p>話題や展開を捉えながら話し合うために気をつけることを理解し、課題に沿って発言内容を考えている。</p>	<p>進んで話題の展開を捉え、学習課題に沿って話し合いにおける発言のしかたについて考えようとしている。</p>
12月	話題や展開を捉えて話し合おう グループ・ディスカッションをする	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。</li> <li>・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li> <li>・互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。</li> </ul>	<p>「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 話し合いの話題を決め、目的を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例を参考に、話し合いたい話題を決める。</li> <li>・何を目指して話し合うのかを明確にする。</li> </ul> <p>2 自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を付箋や小さなカードに書き出し、それぞれの意見の根拠を考える。</li> </ul> <p>3 司会と書記を決め、グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話題と目的を確認し、意見を出し合う。</li> <li>・模造紙や付箋紙を使って、出し合った意見を整理し、結論をまとめる。</li> </ul> <p>4 話し合いの結果を報告する。</p>	<p>意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。</p> <p>自分の考えをまとめる際に、意見に対する根拠を考えている。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。</p> <p>話し合いの話題や展開を捉え、互いの発言を結び付けながら考えをまとめている。</p>	<p>積極的に互いの発言を結び付けて考えをまとめ、学習の見通しをもってグループ・ディスカッションをしようとしている。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・結論とその根拠をクラス全体に伝える。</li> <li>・結論が出なかった場合にも、どこまで決まったかを伝える。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話題や展開を捉えながら話し合うことができたか。</li> <li>・互いの発言を結び付けて考えをまとめることができたか。</li> </ul>				
12月	研究の現場によるこそ	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書が知識や情報を得たり自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。</li> <li>・文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを確かなものにすることができる。</li> </ul>	<p>1 これまでの読書体験を振り返る</p> <p>2 二つの作品を通読する</p> <p>3 グループで感想を伝え合う</p> <p>4 この教材や教科書を参考に今後読みたい本を考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書が知識や情報を得たり自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを確かなものにしている。</li> </ul>	
1月	少年の日の思い出 [書く] 別の人物の視点から文章を書き換えよう	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</li> <li>・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。</li> <li>・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。</li> <li>・書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> <li>・小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。</li> <li>・詩を創作したり随筆を書いたりするなど、感じたことや考えたことを書く。</li> </ul>	<p>「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見直しをもつ。</p> <p>1 作品を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> <p>◇文章の中での語句の意味に注意する。</p> <p>2 作品の展開を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語り手の転換に注意しながら、全体が前半と後半の二つに分かれていることを確認する。</li> <li>・時間、場所、出来事に着目しながら、後半をいくつかの場面に分け、概要を短くまとめる。</li> </ul> <p>3 「僕」の心情の変化をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「僕」から見た「エーミール」の人柄が描写されている部分を探して抜き出す。</li> <li>・クジャクヤママユのうわさを聞いてから、盗み、壊すまでの「僕」の心情の変化をまとめる。</li> <li>・最後に収集したちょうを潰す「僕」の行動を基に心情を捉える。</li> </ul> <p>4 別の人物の視点から文章を書き換える。(学習③)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人物を決め、書き換える場面を選び、創作する。</li> </ul> <p>◇「母」「エーミール」以外にも、「作品前半の語り手」など、幾つかの視点を与えるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き上げた文章を読み合い、感想や意見、作品や登場人物について発表し合う。</li> </ul> <p>学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「僕」の考え方や感じ方について、共感することや疑問に思うところを話し合う。</li> <li>・別の登場人物の視点も踏まえて読むことで、自分の考えや作品の印象はどのように変わったか、挙げる。</li> </ul>	<p>事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>場面描写の言葉や登場人物の心情を表す言葉に着目している。</p>	<p>「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。</p> <p>時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめたりしている。</p> <p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。</p> <p>登場人物の考え方や感じ方について、自分の考えをもっている。</p> <p>「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。</p> <p>別の人物を選び、その人物の心情や行動が明確になるように構成や展開を工夫して書いている。</p>	<p>文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見直しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。</p>
1月	書き初め	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字の大きさや行間、行の中心などを理解して、配列よく書くことができる。</li> </ul>	<p>楷書か行書で書き初めを書く。</p>	<p>楷書・行書の筆使いや字形、文字の大きさなどを理解している。</p>	<p>楷書・行書の書体の特徴について考え、紙面に対する文字の調和のさせ方を考えている。</p>	<p>自己の課題をもって取り組んでいる。</p>

1月	漢字に親しもう 5 1時間	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新出漢字を確認する。</li> <li>2 練習問題に取り組む。</li> </ol> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べる。</p>	<p>小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。</p> <p>小学校で学習した漢字を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。</p>	る。	学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
1月	文法への扉3 単語の性質を見つけよう	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語の類別について理解することができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 例題に取り組み、単語の性質について考える。</li> <li>・単語を組み合わせる過程で、性質の違いに気づき、それによって分類できることを理解する。</li> <li>2 文法3「単語の分類」を読み、「自立語と付属語」、「活用の有無」、「品詞」、「体言と用言」について理解する。</li> <li>・下段の練習問題に取り組む、理解したことを確認する。</li> </ol>	<p>単語の類別について理解している。</p> <p>「単語の分類」「品詞」「体言と用言」について、理解を深めている。</p>		今までの学習を生かして、積極的に単語の類別について理解しようとしている。
1月	二十歳になった日	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</li> <li>・文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えることができる</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<p>全文を通読し随筆の内容を捉える</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 注意する語句、新出漢字を調べる</li> <li>2 心情を表す語句や表現などに着目し、筆者が二十歳になった日に感じたことを挙げる</li> </ol> <p>構成や表現の効果について考える</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3 構成で工夫されている点を話し合う</li> <li>4 筆者の思いや考えが伝わる表現について、どう書かれているかに着目して、表現の効果を考える</li> </ol> <p>自分が考える表現の効果について語り合う</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 自分が注目した表現とその効果について考えたことをグループで語り合う</li> <li>6 学習を振り返る</li> </ol>	<p>事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p>	<p>文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えている。</p>	進んで心情を表す表現とその効果について考え、学習したことを活かして筆者の物の見方をとらえ、随筆を読み味わおうとしている。
2月	構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</li> <li>・書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。</li> <li>・根拠を明確にしなが、自分の考えが</li> </ul>	<p>「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見直しをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 随筆の題材を選ぶ。</li> <li>・随筆に取り上げたい体験を思い出し、一つ選ぶ。</li> <li>2 具体的な材料を書き出す。</li> <li>・エピソードについて、材料を付箋に書き出す。</li> <li>・より詳しく思い出したり、エピソードの意味を見つめ直したりして、エピソードを掘り下げる。</li> <li>3 構成を考える。</li> </ol>	<p>事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p>	<p>「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。</p> <p>読み手に状況がイメージできるように、書く内容の中心が伝わ</p>	粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見直しをもって随筆を書こうとしている。

			<p>伝わる文章になるように工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> <li>随筆を書き、感じたことや考えたことを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>付箋などの記述を基に構成を考え、友達と助言し合う。</li> <li>4 随筆を書く。</li> <li>書きだしや描写を工夫し、600～800字程度で書く。</li> <li>5 学習を振り返る。</li> <li>体験や思いを伝えるために、言葉を吟味して選んだか。</li> <li>どのような点を工夫して随筆を書いたか。</li> </ul>	<p>体験や思いを伝えるために、情景や心情を表す言葉を適切に選んで使っている。</p>	<p>るように、構成を工夫している。</p> <p>「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。</p> <p>書きだしや結び、出来事を、言葉を吟味し、描写を工夫して書いている。</p>	
2月	漢字3 漢字の成り立ち 漢字に親しもう6	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</li> <li>言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>漢字の成り立ちについて理解する。</li> <li>「象形」「指示」「会意」「形声」を用例とともに確認する。</li> <li>国字について知る。</li> <li>漢字の分類「六書」について知る。</li> </ol> <p>2 漢和辞典を利用して練習問題を解き、漢字の成り立ちを調べ、分類する。</p> <p>3 「漢字に親しもう6」の問題に取り組む。</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べる。</p>	<p>小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。</p> <p>漢字の成り立ちについて理解し、漢和辞典を使って調べている。</p>		<p>学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
2月	一年間の学びを振り返ろう 要点をフリップにまとめ、発表する	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。</li> <li>比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。</li> <li>相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。</li> <li>目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。</li> <li>言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</li> <li>紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見を述べたりする。</li> </ul>	<p>「目標」や「学びへの扉」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>観点を決め、一年間の学習を振り返る。</li> <li>印象に残っていることや興味を引かれたことの中から、振り返る観点を決める。</li> <li>決めた観点を教科書やノートなどを読み返し、集めた情報をカードなどに書き出す。</li> <li>分類したり比較したりして整理する。</li> <li>整理した情報を基に、発表する内容を選ぶ。</li> </ol> <p>3 話の構成を考え、フリップを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>何をどのような順序で話すか、構成を考える。</li> <li>画用紙などに要点をまとめたフリップを作る。</li> </ul> <p>◇「構成を考える」の説明のしかたを参考にする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>グループ内で発表する。</li> <li>必要に応じて、フリップを見せる。</li> <li>表情やうなずきなどから、聞き手が話を理解しているかどうかを確かめながら話す。</li> <li>話す内容に合わせて、声の調子や間の取り方を工夫する。</li> <li>聞き手や場に応じて、言葉や表現を工夫する。</li> </ol>	<p>音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。</p> <p>声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながら発表をしている。</p> <p>比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。</p> <p>情報の整理のしかたを理解し、要点をわかりやすくフリップにまとめている。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。</p> <p>聞き手や場に応じて、発表の言葉や表現を変えるなどの工夫をしている。</p> <p>「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>「観点」に見合った情報を集め整理し、内容</p>	<p>集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点をフリップにまとめ、発表しようとしている。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。</li> </ul>	<p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点を決めて、一年間の学習を振り返ることができたか。</li> <li>・自分の考えをわかりやすく伝えるために、どんなことに注意したか。</li> </ul>		<p>が伝わる端的な言葉をフリップに書いている。</p>	
3月	楷書と仮名を調和させて書こう	4	伝える相手や目的を明確にして、配列や用具を工夫して書くことができる。	<p>お薦めの本の帯やポップを作る。</p> <p>ポスターを書く。</p>	さまざまな書式に従って配列や用具を理解して書いている。	伝える相手や目的を明確にして、配列や用具を考えている。	日常生活の中の書写活動に興味・関心をもって取り組んでいる。
3月	僕がここに	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。</li> <li>・文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを確かなものに行うことができる</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<p>印象に残った表現を発表する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 詩の中で印象に残った表現を抜き出し、理由とともに発表する</li> <li>2 提示された二つの表現について意味を考える</li> <li>3 表現技法や表記、表現の仕方の特徴をあげて、その効果について話し合う</li> <li>4 作者の思いについて語り合う</li> <li>5 学習を振り返る</li> </ol>	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。	文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを確かなものに行っている。	積極的に詩を読み味わって考えを深め、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
3月	国語の力試し	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。</li> <li>・音読に必要な文語の決まりを知り、古典の世界に親しむことができる。</li> <li>・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係性などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握することができる。</li> <li>・表現の効果について根拠を明確にして考えることができる。</li> <li>・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。</li> <li>・目的や意図に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。</li> <li>・読み手の立場に立って表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>	<p>身につけた資質、能力を活用して、問題に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 力試しの問題にタブレットを使って取り組む</li> <li>2 行き詰った時には教科書の該当ページを参考にさせる。</li> <li>3 ウェブサイト用の発展問題にも取り組む。</li> </ol>	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係性などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握することができる。	今までの学習を活かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組みようとしている。

※大半の授業で映像や資料の提示のために ICT を活用している。

# 2026年度（令和8年度） 町田市立南中学校 国語科 2年 年間指導計画及び評価規準

使用教科書：国語2（光村図書出版） 年間授業時数：140時間

月	単元・章・教材名	時数	学習目標	学習活動	評価規準
4	見えないだけ	1	<p>◎語句について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 詩を通読する。</p> <p>・好きな言葉や表現をノートに書き写し、その理由をまとめる。</p> <p>2好きな言葉や表現を発表する。</p> <p>3 詩の特徴を生かして朗読する。</p> <p>・友達の発表を聞いて考えたことも踏まえて、詩の内容が効果的に伝わるように工夫して朗読する。</p>	<p>【知・技】語句について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>→詩の中に出てくる好きな言葉や表現を、理由と共にまとめている。</p> <p>【態】進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読しようとしている。</p>
4	アイスプラネット	4	<p>◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(情報(2)イ)</p> <p>◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 作品を通読する。</p> <p>・注意する語句・新出漢字を調べる。</p> <p>2「ぐうちゃん」について整理する。</p> <p>・「ぐうちゃん」の特徴を捉える。(学習①-1)</p> <p>・「ぐうちゃん」に対する「僕」「母」「父」それぞれの思いがわかる言動や表現を挙げ、それらに込められた思いを考える。(学習①-2)</p> <p>3「ぐうちゃん」に対する「僕」の思いを読み取る。</p> <p>・「ぐうちゃん」のほら話に対する「僕」の考えの変化を捉える。(学習②-1)</p> <p>・「僕」が「ぐうちゃん」の部屋に二度と行かなかった理由を考える。(学習②-2)</p> <p>・手紙と写真を受け取ったときの「僕」の気持ちを想像する。(学習②-3)</p> <p>4「ぐうちゃん」に対する自分の思いをまとめる。</p> <p>・「ぐうちゃん」の考え方や生き方について、自分の生活や経験などと比べながら感想をまとめる。(学習③)</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・登場人物の設定の捉え方について、わかったことを挙げる。</p> <p>・これまでに読んだ作品を一つ取り上げ、登場人物の設定を確認する。</p>	<p>【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(情報(2)イ)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア)</p> <p>【態】積極的に登場人物の設定のしかたなどを捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。</p>
4	【聞く】 意見を聞き、整理して検討する	1	<p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 二次元コードの音声聞いて、水島さんと今西さんの意見と根拠を表で整理し、根拠の適切さを評価する。</p> <p>・根拠の客観性や信頼性を確かめたり、意見と根拠の結び付き（「理由づけ」）に無理や飛躍がないか検討したりする。</p> <p>2 整理した表を基に、自分はどちらの意見に納得できるか、考える。</p> <p>・ペアやグループで意見や根拠の適切さについて話し合って考えを深める。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <p>・聞き取った意見と根拠を整理し、根拠の適切さについて検討することができたか、確かめる</p>	<p>【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)</p> <p>→意見と根拠を区別して捉え、適切な根拠の在り方について理解を深めている。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア)</p> <p>→発言者の立場を踏まえ、それぞれの意見と根拠を整理して考えをまとめている。</p> <p>【態】進んで意見と根拠の関係を整理しながら聞き、今までの学習を生かして根拠の適切さなどについて検討しようとしている。</p>
4	文法への扉 1	2	◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成	1 P31の導入や解説を読み、単語が幾つかの観点で分類されるこ	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照

	単語をどう分ける？ 文法1 自立語		分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	とを確かめ、そのうち「自立語」について学ぶことを理解する。 2 P242「文法1 自立語」を読み、自立語の各品詞の性質などについて理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 ・P242下段「話すこと・書くことに生かす」を読み、ここでの学習を今後の学習に生かせるようにする。	応など文の構成について理解している。(1)オ) →自立語にどんな品詞があるかを知り、それぞれが文の中で果たす役割について理解を深めている。 【態】学習課題に沿って、積極的に自立語について理解を深めようとしている。
4	季節のしおり 春	1	・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	・春の行事・暦に関わる言葉や、春の情景を詠んだ詩歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
5	枕草子	4	◎現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ)	1「枕草子」を朗読し、古文を読み味わう。 ・新出漢字を調べる。 ・現代語訳を参考に情景を想像し、古文を朗読する。 2 作者のものの見方や感じ方を読み取る。 ・冒頭を読み、作者が四季のどんなところに趣を感じているのかを整理し、自分が感じる四季の趣と比べる。 ・P30の章段を読み、作者が「何」の「どんな」様子を「どう」感じているのかについて整理する。 3 自分流「枕草子」を書く。 ・「枕草子」の形を借りて、自分ならではの季節感を表す文章を400字程度で書く。 4 学習を振り返る。 ・作者のものの見方や考え方について、印象に残っているものを、理由と共に挙げる。 ・自分ならではの季節感を表す文章を書き、友達と読み合っ、感想をまとめる。	【知・技】現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書こうとしている。
5	魅力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする	5	◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ◎自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。(思・判・表A(1)イ) ◎資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 提案内容を決める。 ・誰に(相手)、何を(話題)、何のために(目的)提案するかを確かめる。 ・現状の課題を見つけ、その解決策を基にするなどして、提案内容を決める。 2 話の構成や表現を工夫する。 ・グループで進行案を作り、話の構成や提示する資料、役割分担などを考える。 ・資料を提示しながら話す練習をする。 3 プレゼンテーションをする。 ・クラスの人たちに向け、グループごとにプレゼンテーションをする(録画する)。 4 学習を振り返る。 ・いちばん心が動かされた提案をクラスで選び、理由を含めて話し合う。 ・録画したプレゼンテーションを視聴し、よかった点や改善点を	【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア) →相手が自ら行動したいと思えるような言葉や表現を用いることを意識している。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →重要なことが効果的に伝わるように話の構成を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →プレゼンテーションソフトやフリップなどを用いて、提案内容が視覚的にもわかりやすくなるよう工夫している。 【態】自分の考えがわかりやすく伝わるように粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。

			話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉には、相手の心を動かし、行動を促す働きがあることを、学習のどのような場面で実感したか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・聞き手の印象に残るプレゼンテーションのために、話の構成や資料の作成において、どのような工夫をしたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・クラスでの発表を振り返り、次に何かを提案するときには、どんな点を工夫したいか考える。</li> </ul>		
5	クマゼミ増加の原因を探る	4	<p>◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 本文を通読する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> </p> <p>2 全体と部分の関係に注意して、構成を捉える。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・「研究のきっかけ」に示された文章全体に関わる問題提起と、それに基づく大きな仮説を確かめる。(学習①-1)</li> <li>・「前提」に書かれた内容を確かめ、筆者が三つの仮説の前に、この部分を置いた理由を考える。(学習①-2)</li> <li>・線や矢印を使って六つの部分の関係を整理する。(学習①-3)</li> </ul> </p> <p>3 文章と図表の関係に注意して、内容を読み取る。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・三つの仮説に対する検証の内容とその結果を、それぞれ文章中の言葉を用いて簡潔にまとめる。(学習②-1)</li> <li>・グラフや模式図、写真などを示した筆者の意図を、それに対応する文章との関係を基に考える。(学習②-2)</li> <li>・「研究のきっかけ」に示された大きな仮説は証明されたといえるか、「まとめ」を読んで自分の考えを説明する。(学習②-3)</li> </ul> </p> <p>4 考えたことを話し合う。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が検証によって否定された仮説を挙げた理由や三つの仮説をこの順序で並べた理由を考え、グループで話し合う。(学習③)</li> </ul> </p> <p>5 学習を振り返る。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・「科学的な根拠を一步一步積み上げて臨む」筆者の姿勢は、どんなところに表れているかを考える。</li> <li>・文章の構成や図表の使い方の中で、効果的だと感じたものを挙げる。</li> </ul> </p>	<p>【知・技】話や文章の構成や展開について理解を深めている。(1)オ)  →文章が六つの部分でできていることを理解し、線や矢印を用いてそれらの関係を整理している。</p> <p>【思・判・表】  <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。(C(1)ア)  →筆者の主張を捉え、それと仮説1～3との関係を理解している。</li> <li>・「読むこと」において、文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。(C(1)ウ)  →文章中の図表やグラフが何のために示されているのかを、対応する文章を基に考えている。</li> </ul> <p>【態】積極的に文章と図表などを結び付け、学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとしている。</p> </p>
6	情報整理のレッスン 思考の視覚化	1	<p>◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 教材文を読み、情報を整理し、視覚的に表す方法を理解する。</p> <p>2 問題1～3に取り組む。</p> <p>3 学習を振り返る。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を書き出して整理し、関係を図で表す四つの方法についてポイントを確認する。</li> </ul> </p>	<p>【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使おうとしている。</p>
6	多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る	5	<p>◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 題材を決め、情報を集める。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べる職業を決め、知りたい項目を挙げる。</li> <li>・知りたいことに適した調べ方を考え、多様な方法で情報を集める。</li> </ul> </p> <p>2 集めた情報を整理する。</p>	<p>【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>→集めた情報を表や図にまとめ、整理している。</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>→知りたいことに適した方法を考えて情報を収集し、収集した情報を分</p>

			<p>活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた情報を、図や記号などを使って整理する。</li> <li>・目的に合わせて、情報を取捨選択する。</li> </ul> <p>3 紙面構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見出しや文章、図・表、グラフ、写真などの配置を考えて、紙面を構成する。</li> </ul> <p>4 紙面を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡潔な文章を心がけて書く。</li> <li>・推敲し、清書する。</li> </ul> <p>5 感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を読み合い、感想を伝え合う。</li> </ul> <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を図や記号で整理することには、どのような効果があるか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・読み手に何を伝えたいと考え、そのために、集めた情報をどのように整理したか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・集めた情報を整理するうえで、いちばん役に立った方法を理由も合わせて書く。</li> </ul>	<p>類・整理して自分の目的に合うものを取捨選択している。</p> <p>【態】多様な方法で集めた情報を粘り強く整理し、学習の見直しをもって職業ガイドを作ろうとしている。</p>
6	漢字 1 熟語の構成 漢字に親しもう 2	1	<p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 教材文を読み、熟語の構成の種類について理解する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p> <p>3 P40「漢字に親しもう1」に取り組む。</p>	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
6	短歌に親しむ 短歌を味わう	5	<p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>	<p>1 P68「短歌に親しむ」を通読し、短歌を朗読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> <li>・情景を想像しながら、短歌を声に出して読む。(学習①)</li> </ul> <p>2 短歌についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌の特徴についてまとめる。(学習②-1)</li> <li>・本文中から、筆者のものの方や感じ方がよく表れている表現を抜き出す。(学習②-2)</li> <li>・好きな一首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書く。(学習②-3)</li> </ul> <p>3 P72「短歌を味わう」を読み、内容や表現のしかたについて感じたことを話し合う。</p> <p>4 P73「短歌を作ろう」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目にした情景、心に残る出来事や感動したことなど、題材を探して短歌を作る。</li> <li>・自他の短歌を比較して、表現の特徴や効果について話し合う。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようなことに着目して、短歌を読み味わったか。</li> <li>・短歌の創作において、心情や情景などを伝えるために、どのような工夫をしたか。</li> </ul>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ)</li> <li>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</li> <li>・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。(B(1)ウ)</li> </ul> <p>【態】進んで短歌の構成や表現の効果について考え、学習の見直しをもって短歌を創作しようとしている。</p>

	【書写】書の古典の鑑賞と学習	3	●移動教室を契機に感じたことなどを短歌に詠む。	1 事前学習において短冊と色紙についての知識を学ぶ。 2 移動教室を通して目にした情景、心に残る出来事や感動したことなどについて短歌を作る。 3 小筆または筆ペンで短冊に短歌を書く。	【思・判・表】自分の体験や感想を短歌にまとめている。これまでの学習を生かしながら、点画の連続・漢字と仮名の大きさ、配列などを理解して書いている。
6	言葉の力	2	◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 文章を要約して、内容を捉える。(学習①) ・三つのまとまりに分け、それぞれの内容を要約する。 3 筆者の考え方について話し合う。 ・「言葉の世界での出来事と同じこと」とあるが、何と何が、どのように同じだと述べているのかを考える。(学習②-1) ・美しい言葉、正しい言葉に対する筆者の考え方について、自分はどのように考えるか、話し合う。(学習②-2) 4 学習を振り返る。 ・自分の考えを広げたり深めたりするために、今後、本や文章をどのように読んでいきたいかを考える。	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) 【態】進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
6	言葉1 類義語・対義語・多義語 語彙を豊かに 抽象的な概念を表す言葉	3	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1 P72導入の課題に取り組み、言葉どうしの関係性について関心をもつ。 2 教材文を読み、類義語・対義語・多義語について理解する。 ・例を基にして、それぞれの語がどのような関係にあるのかを考える。 ◇類義語には、意味が微妙に違うものや、意味は同じでも語感が違うものがあることに気づかせるとよい。 ・P73「生活に生かす」を読み、言葉の幅を広げるのに、類義語・対義語に注目するとよいことを知る。 3 P74のリード文を読み、抽象的な概念を表す言葉を探す。 4 3で集めた言葉の類義語や対義語を集める。 ◇国語辞典や類語辞典などを活用させるとよい。 5 言葉を比べ、用例を考える。 ・集めた言葉を比べ、気づいたことを文章にまとめる。 ◇下段「語感を磨く」を参考にさせるとよい。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →類義語・対義語・多義語の概念について、具体例を当てはめて理解している。 →抽象的な概念を表す語句について、類義語や対義語と比較することを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に類義語と対義語、多義的な語句、抽象的な概念を表す語句などについて理解しようとしている。
7	メディアの特徴を生かして情報を集めよう	3	◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎目的や意図に応じて、多様な方法で集めた材料を整理することができる。(思・判・表B(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 メディアを比べて、特徴を理解する。 ・P60-61に示されたさまざまなメディアを「速報性」「詳細さ」「信頼性」の三つの観点で比較し、その根拠を話し合う。 ・話し合ったメディアの特徴と根拠を、表や図などにまとめる。 2 目的や状況に応じたメディアの選び方を考える。 ・P62「やってみよう」に取り組む。 ・大きな災害を想定し、状況に応じてどのようなメディアを選ぶとよいかを考える。 3 情報の受け取る時の留意点を考える。	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。(C(1)イ) ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ) ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、多様な方法で集めた材料を整理している。(B(1)ア) 【態】粘り強く観点を明確にして文章を比較し、学習課題に沿って目的や状況に応じたメディアの選び方を理解しようとしている。

			<p>思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★本や新聞, インターネットなどから集めた情報を活用し, 出典を明らかにしながら, 考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)</p> <p>★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど, 自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>・P64『自分で考える時間』をもと」を通読する。</p> <p>・ニュースがどのように編集されているかについて, 具体例(編集の例①～③)を基に考える。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <p>・メディアから適切な情報を得るためには, どのような方法で, 何を確認すべきか, わかったことをまとめる。</p> <p>・自分が今後, メディアから情報を得る際に意識していきたいと思うことを伝え合う。</p>	
7	読書を楽しむ	1	<p>◎本や文章などには, さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り, 自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに, 読書を生活に役立て, 我が国の言語文化を大切にして, 思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 教材文を通読し, さまざまな読書活動を知る。</p> <p>2 「本の紹介合戦」, 「読書ポスター」, 「本のリスト」の中から, 夏休みに行う活動を選ぶ。</p> <p>3 活動の内容に沿って, 見通しを立てる。</p> <p>・本の紹介合戦は, 読書記録を基に本を決め, その魅力が伝わるような紹介のしかたを考える。</p> <p>・読書ポスターは, グループでテーマを決め, それに合った本を選ぶ。</p> <p>・読書記録は記録のしかたを確認する。</p> <p>4 グループごとに活動を行い, 感想を発表し合う。</p>	<p>【知・技】本や文章などには, さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り, 自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ)</p> <p>【態】本や文章などには, さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り, 今までの学習を生かして, 本の魅力や感想を共有しようとしている。</p>
7	翻訳作品を読み比べよう 星の王子さま	1	<p>◎本や文章などには, さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り, 自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ)</p> <p>◎観点を明確にして文章を比較するなどし, 文章の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け, 自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに, 読書を生活に役立て, 我が国の言語文化を大切にして, 思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌や小説などを読み, 引用して解説したり, 考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★本や新聞, インターネットなどから集めた情報を活用し, 出典を明らかにしながら, 考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)</p>	<p>1 二人の翻訳者による「星の王子さま」を読み比べる。</p> <p>・翻訳の違いによる作品の印象の違いについて考え, 発表し合う。</p> <p>2 翻訳や外国文学について知る。</p> <p>・「星の王子さま」や読書コラムを読み, 「翻訳」の意味や, 翻訳作品・外国文学のおもしろさについて理解する。</p> <p>3 P87「本の世界を広げよう」を参考に, 今後読みたい本を考える。</p>	<p>【知・技】本や文章などには, さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り, 自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において, 観点を明確にして文章を比較するなどし, 文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ)</p> <p>・「読むこと」において, 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け, 自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</p> <p>【態】進んで表現の効果について考え, 学習課題に沿って二つの翻訳を比べて感じたことを発表しようとしている。</p>
7	【書写】書式の教室	2	<p>●年賀状の書式を学び, 自己の生活で活用する。</p>	<p>1 年賀状の書式を学ぶ。</p> <p>2 時期に合致した書式で実際に書く。</p>	<p>【知・技】書式を使う場面に合った留意点で書いている。</p>
9	季節のしおり 夏	1	<p>・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに, 話や文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに, 読書を生活に役立て, 我が国の言語文化を大切にして, 思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>・夏の行事・暦に関わる言葉や, 夏の情景を詠んだ詩歌などを味わい, 伝統的な言語文化に親しむ。</p>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに, 話や文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</p> <p>【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして, 積極的に語感を磨き, 言語文化を大切にしようとしている。</p>

9	ヒューマノイド	4	<p>◎話や文相の構成や展開について理解を深めることができる。(言葉・漢字(1)オ)</p> <p>◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> <p>2 作品の構成を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの場面に描かれた内容を、「時・場所・出来事」の観点でノートに整理する。(学習①)</li> </ul> <p>3 登場人物の言動の意味を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人物の言動や様子を描いた表現から読み取れる、人柄や心情について考える。(学習②-1)</li> <li>・過去と現在を結び付けて、登場人物の言動を解釈する(学習②-2)</li> </ul> <p>4 自分が捉えた作品の印象を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な場面や描写を基に、作品の印象や特徴を伝え合う。(学習③)</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の言動の意味に着目することで、どんなことが読み取れたか挙げる。</li> <li>・印象に残っている物語や小説を一つ取り上げ、自分なりの印象を、次のような形で短くまとめる。</li> </ul>	<p>【知・技】話や文相の構成や展開について理解を深めることができる。(言葉・漢字(1)オ)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →登場人物の言動から人柄や心情を読み取り、それらが話の展開や作品の印象にどう関わるかを捉えている。</p> <p>【態】粘り強く登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って作品の印象を伝え合おうとしている。</p>
9	字のない葉書	3	<p>◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ)</p> <p>◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> <p>2 二つの思い出を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの思い出の内容を整理する。(学習①-1)</li> <li>・筆者がこの随筆を書いた時点を、叙述を基に考える。(学習①-2)</li> </ul> <p>3 表現に着目して、人柄や心情について読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前半部分の思い出から想像される父親の人柄を、文章中の表現を踏まえてまとめる。(学習②-1)</li> <li>・妹に対する家族の心情を、妹の行動や様子の変化に着目して想像する。(学習②-2)</li> <li>・なくなった父親に対して、今の「私」がどんな思いを抱いているか、表現に即して考える。(学習②-3)</li> </ul> <p>4 父親に対する「私」の思いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が共感できることや共感しにくいと思うことを発表し合う。(学習③)</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前半と後半で、表現のしかたにどんな違いがあったか、自分の言葉でまとめてみる。</li> <li>・随筆をより深く味わうためには、どんな点に着目して読むとよいか、友達と考えを交流する。</li> </ul>	<p>【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →前半部分と後半部分の人柄や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について考えている。</p> <p>【態】進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。</p>
9	聞き上手になろう 質問で思いや考えを引き出す	1	<p>◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学</p>	<p>1 インタビューの準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文を読み、役割を理解し、「今、夢中になっていること」や「私が輝く瞬間」をテーマに、インタビューの準備を行う。</li> </ul> <p>2 インタビューを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の例を参考に、思いや考えを引き出すためにどのように質問したらよいかを考える。</li> <li>・「話し手」、「聞き手」、「聴衆」の役割を交代しながら、インタビューを行う。</li> </ul>	<p>【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア) →どのように質問をすると、相手がさらに話したくなるかを考えている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)</li> </ul>

			<p>習に取り組む態度)</p> <p>★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	<p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話し手」、「聞き手」、「聴衆」それぞれの立場から、気づいたことや考えたことを出し合う。</li> </ul>	<p>【態】粘り強く論理の展開に注意して聞き、今までの学習を生かして思いや考えを引き出す質問をしようとしている。</p>
9	表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く	3	<p>◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	<p>1 手紙と電子メールを比較し、活用場面を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の例を参考に、手紙と電子メール、それぞれの特徴を表にまとめる。</li> </ul> <p>2 伝えたい内容を決め、通信手段を選ぶ。</p> <p>3 手紙や電子メールを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信文を書き、気持ちや用件が伝わったかどうかを互いに伝え合う。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的に応じて、言葉遣いをどのように気をつけたか。</li> <li>・通信手段をどのような観点で選んだか。</li> <li>・気持ちや用件が伝わるように、どんな点に注意したか。</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア)</li> <li>・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ)</li> </ul> <p>【思・判・表】「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>→自分の思いや考えが伝わるように、具体例を加えたり、表現の工夫をしたりして通信文を書いている。</p> <p>【態】積極的に自分の考えが伝わる文章になるように工夫し、学習課題に沿って通信手段を選び、通信文を書こうとしている。</p>
9	【推敲】表現の効果を考える	1	<p>◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 木本さんの手紙の下書きを読み、適切な文字や表記に書き改める。</p> <p>2 ……線部㊦㊧について、より効果的な表現を考える。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような点に着目して、手紙を推敲したか。</li> </ul>	<p>【知・技】敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ)</p> <p>【態】粘り強く文章を整え、今までの学習を生かして手紙を推敲しようとしている。</p>
9	言葉2 敬語	1	<p>◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 導入の例文を読み、敬語の使い方について考える。</p> <p>2 教材文を読み、敬語の働きや種類について理解する。</p> <p>3 教材文を読み、敬語の組み合わせについて考える。</p>	<p>【知・技】敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ)</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとしている。</p>
9	漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 漢字に親しもう3	1	<p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、</p>	<p>1 教材文を読み、同じ訓をもつ漢字の使い分けについて理解する。</p> <p>2 教材文を読み、同じ読みで意味の異なる言葉(同音異義語)の使い分けについて理解する。</p> <p>3 P121の練習問題とP122「漢字に親しもう3」に取り組む。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</li> <li>・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</li> </ul> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に同音異義語を理解し、漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>

			<p>思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>		
10	モアイは語る —地球の未来	4	<p>◎意見と根拠, 具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎文章の構成や論理の展開について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け, 自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに, 読書を生活に役立て, 我が国の言語文化を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★報告や解説などの文章を読み, 理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	<p>1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。</p> <p>2 文章の構成に着目し, 内容を捉える。 ・文章全体を序論・本論・結論に分ける。(学習①-1) ・筆者が序論で示している問いと, それに対する答え, また, 答えの根拠として挙げられている事実を要約し, 表にまとめる。(学習①-2)</p> <p>3 論理の展開を吟味する。 ・筆者が考えるイースター島と地球との共通点を読み取る。(学習②-1) ・イースター島の事例を示した理由について, 筆者の主張との関係に着目して考える。(学習②-2) ・「モアイの秘密」を解き, それを基に地球の未来を語る筆者の論理の展開について, 「効果」や「説得力」という観点から話し合う。(学習②-3)</p> <p>4 筆者の主張に対する考えを文章にまとめる。 ・筆者の主張に対する自分の考えを, 自分の知識や体験と重ねて200字程度でまとめる。(学習③)</p> <p>5 学習を振り返る。 ・「モアイ」は何を語っているのか, 「モアイ」「歴史」「未来」の三つの言葉を使って, 端的に説明する。 ・論理の展開を捉えるとき, どのような点に着目すると効果的か, 自分の言葉で説明する。</p>	<p>【知・技】意見と根拠, 具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において, 文章の構成や論理の展開について考えている。(1)エ)</p> <p>・「読むこと」において, 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け, 自分の考えを広げたり深めたりしている。(1)オ)</p> <p>【態】粘り強く論理の展開について考え, 学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。</p>
10	思考のレッスン2 根拠の吟味	1	<p>◎意見と根拠, 具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに, 読書を生活に役立て, 我が国の言語文化を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 教材文を読み, 根拠を吟味する方法を理解する。</p> <p>2 問題1, 2に取り組む。</p> <p>3 学習を振り返る。 ・文章を読んだり, 相手の話を聞いたりするときには, 根拠を把握し, その根拠に説得力があるかどうかを吟味することが大切だということを確認する。</p>	<p>【知・技】意見と根拠, 具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【態】今までの学習を生かして, 積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。</p>
10	適切な根拠を選んで書こう 意見文を書く	4	<p>◎意見と根拠, 具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように, 段落相互の関係などを明確にし, 文章の構成や展開を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり, 表現の効果を考えて描写したりするなど, 自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに, 読書を生活に役立て, 我が国の言語文化を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力, 人間性等)</p> <p>★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど, 自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し, 学習の見通しをもつ。</p> <p>1 課題を決め, 調べる。 ・地域や社会で話題や問題になっていることなどの中から課題を決める。 ・課題に関する情報を集めて, 自分の意見を決め, それを支える根拠を探す。</p> <p>2 構成を考える。 ・適切な根拠を選び, 「理由づけ」を考える。 ・読み手にとってわかりやすい段落の構成を考え, 全体の構成を決める。</p> <p>3 意見文を書く。 ・600~800字程度でまとめる。 ・根拠の適切さ, 「理由づけ」の説得力などの観点で推敲する。</p> <p>4 交流する。 ・意見文を友達と読み合い, 納得できた点や疑問点, 改善点などを伝え合う。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・どのようなことに注意して, 自分の意見を支える根拠を選ん</p>	<p>【知・技】意見と根拠, 具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>→自分の意見を支えるための適切な根拠を選んでいる。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「書くこと」において, 伝えたいことがわかりやすく伝わるように, 段落相互の関係などを明確にし, 文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ)</p> <p>→段落のまとまりを意識して, 自分の意見が明確に伝わるよう文章の構成を決めたり, 段落の順序を検討したりしている。</p> <p>・「書くこと」において, 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり, 表現の効果を考えて描写したりするなど, 自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>→根拠として適切な事実と, 意見と根拠を無理なく結び付ける「理由づけ」を示し, 自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。</p> <p>【態】粘り強く根拠の適切さを考え, 学習の見通しをもって意見文を書くようとしている。</p>

				<p>だか、確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見を明確に伝えるために、どのような基準で根拠を選び、どのように構成を工夫したか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>意見をわかりやすく伝える工夫の中で、次に使ってみたいものを一つ挙げる。</li> </ul>	
1 0	漢字に親しもう 4	1	<p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p>	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
1 1	聴きひたる 月夜の浜辺	1	<p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 朗読音声を聴き、言葉の響きやリズムを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>七音の繰り返しのリズムや反復表現に注目する。</li> <li>新出漢字を調べる。</li> <li>「忍びず」、「袂」、「沁みる」などの語句の意味を確認する。</li> </ul> <p>2 表現に着目し、その効果について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>反復表現や対句表現、反語表現に着目し、詩の情景や作者の心情を想像する。</li> <li>七音の繰り返しのリズムや反復の効果を味わい、情景や心情を想像しながら読む。</li> </ul>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</p> <p>→詩の中の語句に着目し、詩全体の世界を豊かに想像している。</p> <p>【態】進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。</p>
1 1	季節のしおり 秋	1	<p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋の行事・暦に関わる言葉や、秋の情景を詠んだ詩歌などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。</li> </ul>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</p> <p>【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>
1 1	音読を楽しもう 平家物語	1	<p>◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 「源氏と平家」の資料を読み、「平家物語」の主要な人物や主な戦いについて知る。</p> <p>2 「平家物語」の概要と文章の特徴を知る。</p> <p>3 冒頭部分を音読し、独特の調子とリズム、言葉の響きを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的仮名遣いに注意して正しく読む。</li> </ul> <p>4 冒頭部分の現代語訳を読み、「平家物語」を貫く「無常観」のイメージをもつ。</p> <p>5 作品を貫く「無常観」と重ねて冒頭部分を朗読する。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)</li> <li>→漢語を交えた独特の調子とリズムを捉えて朗読している。</li> <li>現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ)</li> <li>→冒頭部分の現代語訳を読んで、「無常観」を感じ取っている。</li> </ul> <p>【態】進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、学習課題に沿って朗読しようとしている。</p>
1 1	扇的 —— 「平家物語」から	4	<p>◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ)</p> <p>◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1))</p>	<p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>注意する語句・新出漢字を調べる。</li> <li>歴史的仮名遣いの読み方を確認する。</li> </ul> <p>2 「平家物語」の冒頭部分と「扇的」を繰り返し朗読する。(学習①)</p> <p>3 登場人物の言動から、心情を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>与一、見守る源氏の武士たち、義経の思いをそれぞれの言動</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)</li> <li>現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ)</li> </ul> <p>【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ)</p>

	【書写】行書と仮名の調和と配列	2	イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)  ・行書と仮名の調和や配列を理解して書くことができる	から考え、話し合う。(学習②-1) ・「あ、射たり。」と言った人と、「情けなし。」と言った人の気持ちについて話し合う。(学習②-2) 4 読み取ったことを基に自分の考えを述べる。 ・「扇的」に登場する人物たちの言動から読み取ったもの見方や考え方について、自分の考えを述べる。(学習③) 5 学習を振り返る。 ・古典の文章の調子やリズムについて、どんなことを感じたかを発表する。 ・登場人物の言動から、どのようなもの見方や考え方を読み取ったか、まとめたものを見返す。  1 これまで学習してきた行書と仮名の調和や、配列を理解して書く力を生かして、硬筆で古典教材を書く学習であることを知る。  2 『平家物語』の冒頭部分について、批評を生かして書く。	【態】進んで登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。  【知・技】 行書と仮名の調和や配列を理解して書いている。
1 1	仁和寺にある法師 ——「徒然草」から	3	◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたもの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 2 「徒然草」の冒頭部分と「仁和寺にある法師」の原文を朗読する。(学習①) 3 本文を読み、内容をまとめる。 ・法師の勘違いの内容を、原文やP159の図を使って説明する。(学習②-1) ・法師の勘違いについて、作者がどのように捉えているかを原文から考える。(学習②-2) 4 法師と同じような勘違いをした経験がないかを踏まえて、考えたことを話し合う。(学習③) 5 学習を振り返る。 ・どんなことに気をつけて文章を朗読したかを発表する。 ・作者のもの見方や考え方について、感じたことをまとめる。 6 人物の特徴を捉えて、文章にまとめる。 ・P161「人物の特徴を捉えて論じよう」を読み、手順を確かめる。 ・「扇的」や「仁和寺にある法師」の登場人物の中から、論じる人物を決める。 ・選んだ人物の特徴を捉えて、人物像を300字程度で論じる。 7 文章を友達と読み合い、学習を振り返る。 ・古典の登場人物の特徴をわかりやすく伝えられるように、文章の構成を工夫したか。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたもの見方や考え方を知っている。(3)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ)【態】積極的に考えたことを知識や経験と結び付け、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章を書こうとしている。
1 1	漢詩の風景	3	◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 漢詩の特徴を生かして朗読する。(学習①) 3 解説を手がかりに、漢詩を読み味わう。(学習②) 4 好きな漢詩を選び、その理由を伝え合う。 ・三編の漢詩から、自分の好きな一編を選び、気に入った表現や句を抜き出す。(学習③-1) ・抜き出した表現や句を引用して、その漢詩を好きだと思った	【知・技】作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) 【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) 【態】進んで作品の特徴を生かして朗読し、学習課題に沿って好きな漢詩を選び、その理由を述べようとしている。

			考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	理由を述べる。(学習③-2) 5 学習を振り返る。 ・漢詩特有の言葉遣いや調子を感じられる部分を発表する。 ・それぞれの漢詩から、どんな情景や心情を読み取ったか、話し合う。	
1 1	君は「最後の晩餐」を知っているか 「最後の晩餐」の新しさ	4	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 「君は『最後の晩餐』を知っているか」の内容を捉える。 ・「最後の晩餐」(P173, 174)の図版と本文を結び付けて読み、「解剖学」「遠近法」「明暗法」が使われているところを理解する。(学習①-1) ・筆者が「最後の晩餐」を「かつこいい」と思った理由について、文章中の言葉を使って簡潔にまとめる。(学習①-2) 3 文章を比較して、構成や表現の特徴を捉える。 ・観点を決めて「君は『最後の晩餐』を知っているか」と『最後の晩餐』の新しさを比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を確かめる。(学習②-1) ・文章の構成や表現の特徴について、比較を通して発見したことを発表する。(学習②-2) 4 考えたことを文章にまとめる。(学習③) ・筆者がなぜこのような書き方を選んだのか、目的や意図と結び付けて考える。 ・文章の構成や表現が、文章全体にどのような印象を与えているかを考える。 5 学習を振り返る。 ・比較によって初めて気づいたことや理解が深まったことを踏まえて、文章を比較することの効果友達に報告する。 ・二つの文章に使われていた構成や表現のいずれかを取り入れ、自分が好きな作品について論じる。	【知・技】 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。(C(1)イ) ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ) 【態】粘り強く観点を明確にして文章を比較し、今までの学習を生かして考えたことを文章にまとめようとしている。
1 2	【話し合い(進行)】 話し合いの流れを整理しよう	1	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 進行役になったつもりで話し合いの様子を視聴する。 2 進行役の最後の発言に続く形で、参加者から出た意見をまとめる。 3 P184下段の「話し合いの流れを整理するために」を参考に、まとめた意見を見直す。 4 見直して気づいたことを手がかりに、話し合いの流れを整理するときに必要なことをグループで話し合う。 5 学習を振り返る。 ・話し合いの流れを整理する際のポイントを確かめる。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →意見と根拠の関係に注意して、話し合いの内容を聞き取っている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →意見の内容や意見どうしの関係に気をつけて、話し合いの流れを整理している。 【態】話し合いの流れを整理するときに必要なことを進んで考え、今までの学習を生かして話し合おうとしている。
1 2	立場を尊重して話し合おう 討論で視野を広げる	4	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 テーマについて情報を集める。 ・テーマと用語の定義を全体で確認する。 ・各自、現状やメリット・デメリットを調べ、根拠となる情報を集める。 2 立場に分かれ、考えをまとめる。 ・立場(肯定側・否定側)を決め、意見と根拠、理由づけを整理	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →適切な根拠となる情報を集め、意見と根拠、理由づけを整理している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →互いの意見の共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて質問したり反論したりし、振り返りに関して自分の考えをまとめている。

			<p>論を導くために考えをまとめることができる。 (思・判・表A(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)</p>	<p>する。</p> <p>3 グループで討論する。 ・司会1名を決め、肯定側2名・否定側2名で討論する。</p> <p>4 討論を振り返る。 ・相手側の意見や質問などを通して得られた新たな気づきを報告し合う。 ・司会は、肯定側・否定側のよかった点を伝え、共有する。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・意見を裏づける適切な根拠を示すために、どんなことに気がつけたか、自分の言葉でまとめる。 ・異なる立場や意見を尊重しながら話し合ううえで、どのような発言が効果的だったか、確かめる。 ・実際に体験してわかったことを基に、討論が役立ちそうな場面を挙げる。</p>	<p>【態】進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。</p>
1 2	文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。	2	<p>◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 P187の導入や解説、P238文法2「①活用」を読み、「活用」の意味や用語について理解する。</p> <p>2 P239文法2「②用言の活用 1 動詞の活用」を読み、動詞の活用について理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。</p> <p>3 P241文法2「②用言の活用 2 形容詞・形容動詞の活用」を読み、形容詞・形容動詞の活用について理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。</p>	<p>【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(1)オ)</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の活用について理解しようとしている。</p>
1 2	「自分らしさ」を認め合う社会へ 父と話せば／ 六千回のトライの先に 読書案内 本の世界を広げよう	1	<p>◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。 (知・技(3)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)</p>	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 P192「父と話せば」を通読する。</p> <p>2 P195「六千回のトライの先に」を通読する。</p> <p>3 感想を伝え合う。 ・教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、初めて知ったこと、興味をもったこと、疑問に思ったことなどを伝え合う。</p> <p>4 P200「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。</p>	<p>【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ)</p> <p>→実体験を基に書かれた作品の魅力に触れ、今後読みたい本を選んでいる。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</p> <p>→教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、感想を伝え合っている。</p> <p>【態】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして感想を伝え合おうとしている。</p>
1 2	漢字に親しもう4	1	<p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p>	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
1 2	季節のしおり 冬	1	<p>・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p>	<p>・冬の行事・暦に関わる言葉や、冬の情景を詠んだ詩歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。</p>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</p> <p>【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語</p>

			▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)		感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
1 2	【書写】毛筆 点画の省略・筆順の変化・行書と仮名の調和	7	・点画の連続を理解して、字形を整えて書くことができる。 ・「いとへん」の筆順の変化を理解し、字形を整えて書くことができる。 ・点画の連続と配列を理解して書くことができる。	1 行書点画の連続と省略の筆遣いについて確認する。 2 行書の筆順の変化について確認する。 2 漢字の行書と仮名を調和させて書く。	【知・技】 ・点画の連続を理解して、字形を整えて書いている。 ・「いとへん」の筆順の変化を理解し、字形を整えて書いている。 ・点画の連続と配列を理解して書いている。
1 2	【書写】書き初めを書く	3	●行書の特徴や配列を理解し毛筆で書くことができる。	1 1年の学習を振り返る。 2 2年の行書手本の特徴と筆遣いを考え、話し合う。 3 二つの手本のうち一つを選択し、特徴や配列を理解し毛筆で書く。	【思・判・表】友好の精神「真理の探究」の特徴と筆遣いについて考えを発信している。行書手本の特徴や配列を理解し毛筆で書いている。 【態】今までの学習を振り返り、知識や技能を活用しながら自己の学びを表現している。
1	走れメロス	6	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 作品の設定と構成を押さえる。 ・人物・時・場所・出来事などに着目して幾つかの場面に分け、作品の構成を確認する。(学習①) 3 場面の展開に即して人物像を読み取る。 ・冒頭から「メロス」が王城を出発する場面までで、「メロス」と「王」はどんな人物として描かれているかを考える。(学習②-1) ・村から刑場に向かう途中で、「メロス」の考え方や心情は、どんな場面でどのように変化しているかを考える。(学習②-2) ・刑場で「王」の人物像は何をきっかけにどう変化したかを考える。(学習②-3) 4 作品の魅力をまとめ、語り合う。(学習③) ・自分が感じた作品の魅力を文章にまとめる。 ・まとめた文章を基に、作品の魅力をグループで語り合う。 5 学習を振り返る。 ・「メロス」の行動や考え方について、共感できたところ・できなかったところを、理由と共にまとめる。 ・何に着目して作品の魅力を捉えたかを考え、他の作品を読むときにも生かせそうな観点を挙げる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) 【態】粘り強く登場人物の言動の意味などについて考え、学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめようとしている。
1 2	漢字に親しもう5	1	◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
2	文法への扉3 一字違いで大違い	2	◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解す	1 P215の導入や解説を読み、付属語の働きについて考える。 2 P244文法3「①付属語」を読み、付属語の種類について理解す	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。(1)オ)

			<p>る。(知・技(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>る。</p> <p>3 P244文法3「②付属語の種類 1 助動詞」を読み、助動詞の働きについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。</li> </ul> <p>4 P246文法3「②付属語の種類 2 助詞」を読み、助詞の種類と働きについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。</li> </ul>	<p>【態】今までの学習を生かして、積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとしている。</p>
2	描写を工夫して書こう 心の動きが伝わるように物語を書く	5	<p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 題材を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活を振り返り、「心が動いた瞬間」を書き出し、整理する。</li> </ul> <p>2 設定や構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定(時、場所、登場人物)を考える。</li> <li>・自分の心情や考えが変化した場面を中心に、あらすじを考える。</li> <li>・状況設定・発端、展開、山場、結末の流れで構成を考える。</li> </ul> <p>3 物語を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・描写を工夫して物語を書く。</li> <li>・書きあがったら、推敲する。</li> </ul> <p>4 作品を読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を読み合い、表現の工夫とその効果について、感想や助言を伝え合う。</li> <li>・友達の感想や助言などを踏まえ、自分の作品のよい点や改善点を見いだす。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに使えるようになった言葉や表現には、どんなものがあるか、挙げる。</li> <li>・心が動いた瞬間を読み手に伝えるために、表現においてどのような工夫をしたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・物語を書いたり作品を読み合ったりする中で気づいた、描写を工夫することのよさや効果について、話し合う。</li> </ul>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ)</p> <p>→これまでに読んだ物語や小説の表現を参考にして、場面の様子や人物の心情を表す語句を使って書いている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</li> </ul> <p>→読み手が場面の様子や人物の心情を具体的に想像できるように、表現の効果を考えながら描写を工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ)</li> </ul> <p>→書いた物語を友達と読み合い、よい点や改善点を伝え合っている。</p> <p>【態】粘り強く描写を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。</p>
2	言葉3 話し言葉と書き言葉	2	<p>◎話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。(知・技(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 導入の例文から、話し言葉と書き言葉の違いについて考える。</p> <p>2 音声の特徴から話し言葉を捉え、文字の特徴から書き言葉を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同音異義語の伝え方を理解する。(話し言葉)</li> <li>・漢字、平仮名、片仮名、句読点、常体・敬体の使い方に注意する。(書き言葉)</li> </ul>	<p>【知・技】話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。((1)イ)</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。</p>
3	漢字3 送り仮名	2	<p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 導入の例から、送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認する。</p> <p>2 教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解する。</p> <p>3 P223の練習問題に取り組む。</p>	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)ウ)</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり、書いたりしようとしている。</p>
3	国語の学びを振り返ろう	4	<p>◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理</p>	<p>1 グループで話し合い、壁新聞のテーマを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間でできるようになったことや考え方が変わったことを出し合う。</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話や文章の構成や展開について理解を深めている。((1)オ)</li> <li>・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。</li> </ul>

			<p>解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)</p> <p>★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>・自分たちの変化から「国語を学ぶ意義」を考え、グループで壁新聞のテーマを一つに決める。</p> <p>2 壁新聞の内容を話し合う。</p> <p>・内容と割り付け、必要な写真や図を話し合う。</p> <p>3 壁新聞を作る。</p> <p>・分担して、記事の下書きをする。</p> <p>・下書きを推敲し、記事を清書する。</p> <p>4 壁新聞を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・1年間の学習を振り返り、国語を学ぶ意義を見いだすことができたか。</p> <p>・伝えたいことをどのように壁新聞にまとめたか。</p>	<p>(2)イ)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ)→壁新聞のテーマと内容について、お互いの意見の共通点・相違点を明らかにしながら話し合い、結論を導いている。</p> <p>・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ)</p> <p>・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ)</p> <p>【態】粘り強く文章の構成や展開を工夫し、今までの学習を生かして壁新聞を作ろうとしている。</p>
3	鍵	2	<p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>1 詩を通読する。</p> <p>2 詩の中の印象に残った表現を挙げ、どんな印象を受けたかを話し合う。(学習①)</p> <p>3 表現の意味を考える。</p> <p>・詩の中に書かれた「鍵」の特徴を発表する。(学習②-1)</p> <p>・「鍵」によって「ひらかれる」「扉」の向こうには、どんなものがあるかを考える。(学習②-2)</p> <p>4 作者のものの見方について語り合う。(学習③)</p> <p>・「私」が「この世」をどんな世界と捉えているのかを考える。</p> <p>・自分が考える「この世」との共通点や相違点を基に、作者のものの見方について、考えをまとめ、他の人と意見を交流する。</p>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</p> <p>【態】進んで詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。</p>
3	学習を振り返ろう	3	<p>◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。(思・判・表A(1)イ)</p> <p>◎論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができ</p>	<p>1 P256の小説を読み、学習課題に取り組む。</p> <p>・長編版「アイスプラネット」の冒頭を読み、教科書の文章と比較する。</p> <p>・設定の違いを表にまとめる。</p> <p>・登場人物の違いによって加わる展開の可能性について考える。</p> <p>2 P257の提案を聞き、学習課題に取り組む。</p> <p>・大川さんの提案を聞き、大川さんが卒業生に伝えたいことは何かを考える。</p> <p>・自分が卒業生に言葉を贈るとしたら、どんな言葉を選ぶかを考え、出典を明らかにして、その言葉と選んだ理由を書く。</p> <p>3 P258のメールの下書きを読み、学習課題に取り組む。</p> <p>・山内さんのメールの下書きを読み、推敲する。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア)</p> <p>・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ)</p> <p>・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア)</p> <p>・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ)</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。(A(1)イ)</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。</p>

		<p>る。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)</p> <p>★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>		<p>(A(1)エ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</li> <li>・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ)</li> </ul> <p>【態】進んで登場人物の設定のしかたや根拠の適切さを考え、今までの学習を生かして、学習課題に取り組もうとしている。</p>
--	--	---	--	---

※大半の授業で映像や資料の提示のために ICT を活用している。

# 2026年度（令和8年度） 町田市立南中学校 国語科 3年 年間指導計画及び評価規準

使用教科書：国語3（光村図書出版） 年間授業時数：105時間

月	単元・章・教材名	時数	学習目標	学習活動	評価規準
4	世界はうつくしいと	1	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 詩を通読する。</p> <p>2 詩を読み深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詩を読んで感じた素朴な疑問を質問の形にして書き出す。</li> <li>・隣どうして質問し合い、お互いに相手の質問について考えたことを伝える。それを踏まえて、自分なりの答えを考える。</li> <li>・自分にとっての「うつくしいもの」を考え、グループで交流する。</li> </ul> <p>3 詩の特徴を生かして朗読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの解釈を踏まえて、詩をもう一度朗読し、最初に読んだときと比べて、詩に対する印象はどのように変わったか、自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<p><b>【知・技】</b>理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>→詩に用いられている語句や表現に着目して考えている。</p> <p><b>【態】</b>進んで語感を磨き、友達の考えや今までの学習を生かして詩の解釈や朗読をしようとしている。</p>
4	1 深まる学びへ 握手	6	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>◎文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えることができる。</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。</p>	<p>1 作品を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> <p>2 作品の設定を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「現在」と「回想」の部分を読み分け、時間の順序を整理しながら、場面や登場人物の設定を確認する。(学習①-1)</li> <li>・展開のしかたにどんな特徴や効果があるか話し合う。(学習①-2)</li> </ul> <p>3 登場人物の人物像を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ルロイ修道士」の人物像が読み取れる言動を抜き出し、どのような人物であるかを短くまとめる。(学習②-1)</li> </ul> <p>4 登場人物の心情を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わたし」と「ルロイ修道士」との間でかわされた、3回の握手に込められた二人の思いを考える。(学習②-2)</li> <li>・「ルロイ修道士」の葬式で、「わたし」が「知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた」ことの意味を考える。(学習②-2)</li> </ul> <p>5 読み深めた感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み深めたことを踏まえ、「ルロイ修道士」の考え方や生き方について、自分で考えたことや感じたことを書く。(学習③)</li> </ul> <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「握手」の展開のしかたにはどんな特徴や効果があったか、自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<p><b>【知・技】</b>理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。</p> <p>→時間・場所など、「現在」と「回想」の部分を読み分けるポイントとなる語句や、登場人物の心情や人物像を表す言葉、比喩表現などに着目している。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えようとしている。</li> <li>→「現在」と「回想」の部分を読み分け、物語の展開のしかたの効果について考えている。</li> <li>・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えようとしている。</li> <li>→文章の内容に沿って登場人物の生き方や価値観を読み取り、自分の知識や経験と比較しながら考えている。</li> </ul> <p><b>【態】</b>粘り強く物語の展開のしかたを捉え、学習課題に沿って作品を批評したり、考えたことを伝え合ったりしようとしている。</p>

				・「ルロイ修道士」の生き方や価値観について語り合い、考えが深まったことを挙げる。	
4	[聞く] 意見を聞き、適切さを判断する	1	◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 坂本さんのスピーチの練習を聞く。 ・「中学生は全員、ボランティア活動をするべきだ」という坂本さんのスピーチを、メモを取りながら聞く。 ・聞き取りメモと、P30「意見を聞き、適切さを判断するために」を基に、坂本さんの意見や、その根拠が適切かどうかを判断する。 2 スピーチをよりよくするための助言を考える。 ・坂本さんの練習相手になったつもりで、助言を考える。 ・自分で考えた助言を友達と共有する。 3 学習を振り返る。	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →根拠としている情報について、事実関係や裏づけなどに注意して聞いている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →多様な考えをもつ聞き手の存在を想定しながら、意見と根拠、理由づけの適切さを判断し、改善策を検討している。 【態】聞き取った内容や意見と根拠の適切さを進んで評価し、今までの学習を生かして助言を考えようとしている。
4	文法への扉1 「走って」いるのは誰？ 文法1 文法を生かす	1	◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(2年知・技(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1 教材文を読み、文法的な観点から表現を見直すことの意義を確認する。 ・導入の課題に取り組み、AさんとBさんとの間で食い違いが生まれた原因について考える。 ・どうすれば食い違いが生じなかったのか、文法的な観点から話し合う。 2 P230「文法1 文法を生かす」を読む。 ・文節・連文節の係り受けなど、既習の文法について理解を深め、文法の知識を表現や読解に生かすポイントを確認する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(2年(1)オ) →既習の文法事項が、日常の会話や文章を見直したり文の表現効果を考えたりする際の判断基準になることを理解している。 【態】助詞や助動詞の働きなどを進んで振り返り、今までの学習を生かして設問に取り組みようとしている。
5	説得力のある構成を考えよう スピーチで心を動かす	3	◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。(思・判・表A(1)イ) ◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 話題を決め、情報を集める。 2 話の構成を考える。 3 スピーチの会を開く。 4 交流する。 5 学習を振り返る。	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →情報の発信者・出典、調査方法、情報の数などが適切か確認して、必要な情報を集めている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →興味を引く導入や明確な主張、聞き手が納得できる根拠や提案の設定、適切な説明の順序などを考えて、話を構成している。 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の興味を引く問いかけや強調表現を取り入れたり、聞き手の反応に応じて話の内容を補足したりするなど、工夫して話している。 【態】相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、学習の見通しをもって自分の考えを伝えようとしている。
5	言葉1 相手や場に応じた言葉遣い	2	◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わ	1 導入の例を読み、相手や場に応じた言葉遣いについて関心をもつ。 2 相手や場に応じた言葉遣いについて理解する。 ・「相手や場に応じた言葉遣い」を読み、相手との間柄や場な	【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。(1)エ) →敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、実際の使用場面を想定しながら、適切な使い方を考えている。

			り、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	<p>どを踏まえて、言葉遣いを選ぶ必要があることを理解する。</p> <p>3 相手や場に応じた表現について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「相手や場に応じた表現の選び方」を読み、相手や場にふさわしい表現を選ぶために、気をつけるとよいことを理解する。</li> <li>・P37下段「やってみよう」に取り組む。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や場にふさわしい言葉遣い・表現を選ぶために、何に気をつければよいかを確かめる。</li> </ul>	【態】相手や場に応じた言葉遣いや表現の選び方について進んで理解し、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。
5	漢字1 熟語の読み方 漢字に親しもう1	2	<p>◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p> <p>◇漢字の音訓、部首、送り仮名などの既習事項を思い出させる。</p>	<p>【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア)</p> <p>→文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
5	学ぶて時に之を習ふ ——「論語」から 漢文の訓読	4	<p>◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ)</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★漢文を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「論語」について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材冒頭の解説とP40のコラム「孔子と弟子たち」を読む。</li> </ul> <p>2 「論語」を読み、孔子の考え方を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の書き下し文や訓読文を、漢文の言い回しや歴史的仮名遣いと現代仮名遣いに注意して、繰り返し朗読する。</li> </ul> <p>3 日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまると思われる体験を伝え合う。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「論語」の中から、自分たちの生活に生かしていきたい言葉を選び、伝え合う。</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア)</li> <li>→教材文を参考に歴史的背景を押さえ、教材の書き下し文や訓読文、現代語訳を読むことを通して、「論語」の世界に親しんでいる。</li> <li>・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ)</li> <li>→日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまる体験を伝え合っている。</li> </ul> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>→人間の生き方に関する孔子の考え方を、自分の生き方や生活と関連づけて考えている。</p> <p>【態】人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見をもち、今までの学習を生かして考えを伝え合おうとしている。</p>
6	作られた「物語」を超えて	3	<p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★論説などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> <p>2 論理の展開を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴリラの事例の概要を、教科書に示された3点に着目して捉える。(課題1-①)</li> <li>・この文章の論理の展開を、教科書に示された2点に着目して捉える。(課題1-②)</li> </ul> <p>3 筆者の主張を捉える。(課題2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者は、作られた「物語」を超えて真実を知るために、どうすべきだと主張しているか、要約する。</li> </ul> <p>4 筆者の主張について考え、文章にまとめる。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が指摘する人間の性質について、思い当たる事例を一つ挙げ、今後どのようなことを意識していきたいか簡潔にまと</li> </ul>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p> <p>→ゴリラの事例と人間社会の話に着目して、「具体と抽象」の関係を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア)</p> <p>→論説の特性を踏まえ、「具体と抽象」の関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化するなどして捉えている。</p> <p>【態】進んで文章の構成や論理の展開を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。</p>

				める。 5 学習を振り返る。 ・論理の展開を捉えるときには、どんな点に着目すると効果的か、自分の言葉でまとめる。 ・今後、自分が意見文を書く際に、論理の展開に説得力をもたせるために活用できそうな工夫を一つ挙げる。	
6	思考のレッスン 具体化・抽象化	2	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。 ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。	1 教材文を通読する。 ・具体と抽象の関係で捉えられるものや、具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたについて理解する。 ・下段の問題1に取り組む。 ・まとめた文をお互いに伝え合う。 2 教材文を通読し、具体化と抽象化の程度について理解する。 ・問題2に取り組む。 ・グループになって、各自が作った具体例の具体化の程度を順序づけ、全体に発表する。 3 学習を振り返る。 ・文章を読んだり書いたりするときには、具体と抽象の関係についてどんなことに注意すればよいか確認する。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア →具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたや、具体と抽象の程度を捉えながら読んだり書いたりしている。 【態】具体と抽象の関係について積極的に理解し、学習した内容を生かして問題に取り組もうとしている。
6	漢字に親しもう2	1	◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。 ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。	1 導入の例から、漢字二字の熟語には、音または訓を重ねる読み方と、音と訓を組み合わせた読み方があることを知る。 2 教材文を読み、さまざまな熟語の読み方について理解する。 3 練習問題に取り組む。 4 P60「漢字に親しもう2」の問題に取り組む。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
6	論理の展開を意識して書こう グラフを基に小論文を書く	4	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 課題に沿って材料を集める。 ・P56の課題を正確に理解し、示された資料を読み解く。 ・読取った事実と、その解釈やそれを基に考えたことを材料として書き出す。 2 構成や内容を考える。 ・軸となる意見を決め、適切な根拠を選ぶ。 ・多様な読み手を説得できるように、論理の展開を考え、文章の構成を工夫する。 3 小論文を書く。 ・規定の文字数を守り、考えがわかりやすく伝わるよう表現を工夫して書く。 4 交流する。 ・友達と文章を読み合い、論理の展開などについて助言し合う。 5 学習を振り返る。 ・資料から得たどのような情報を根拠とし、どのように意見と	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア →資料から読み取った事実の中から、自分の意見を支える適切な根拠を選んでいる。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →課題に沿って資料を読み解き、読み取った事実と、自分の解釈や考えを整理して書き出している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →説得力のある文章にするために、論理の展開や意見と根拠、その結び付きを考えながら、文章の構成を工夫している。 【態】論理の展開や意見と根拠、それらを結び付ける「理由づけ」などを粘り強く考え、学習課題に沿って説得力のある小論文を書こうとしている。

			<p>結び付けたか、自分の言葉でまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説得力のある小論文を書くために、論理の展開をどのように工夫したか挙げる。</li> <li>・友達と文章を読み比べ、説得力のある資料の活用のしかたについて考える。</li> </ul>		
7	<p>言葉とともに 俳句の可能性 俳句を味わう</p> <p>〔書く〕俳句を作って楽しもう</p> <p>【書写】書の古典の鑑賞と学習</p>	6	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎文章の構成や表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>◎多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★俳句を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(2年思・判・表B(2)ウ)</p> <p>●修学旅行に向けた学習を契機に書体と書風を学び、日常生活と芸術としての書の調和を考える。また、文化遺産に書かれた文字の書風の違いを鑑賞し、味わう姿勢をもつ。</p>	<p>1 情景を想像しながら、それぞれの俳句を朗読する。(学習①)</p> <p>2 本文を読み、俳句についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「季語」「有季定型」「歳時記」「切れ字」「自由律俳句」「無季俳句」の意味を確認する。(学習②-1)</li> <li>・本文中から、筆者のものの見方や感じ方がよく表れている語句や表現を抜き出して、意味を確認する。(学習②-2)</li> <li>・本文やP74「俳句を味わう」から、好きな俳句を一句選び、短い鑑賞文を書く。(学習②-3)</li> <li>・同じ俳句を選んだ生徒でグループを作り、鑑賞文を読み合う。</li> </ul> <p>3 P75「俳句を作って楽しもう」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名人の作句法などを基に、俳句を作る。</li> <li>・作品を持ち寄り、P75「句会を開こう」を参考にして、句会を行う。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句の特徴にはどのようなものがあったか確かめる。</li> <li>・次に俳句を作るときに参考にしたい語句の使い方や表現のしかたをまとめる。</li> </ul> <p>。 </p> <p>1 事前学習において書と文化遺産についての知識を学ぶ。</p> <p>2 修学旅行を通して訪れる寺院の日本建築と「書」の関係について調べて学ぶ。</p> <p>3 修学旅行および事前・事後学習において、上記①・②についてまとめる。</p>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けられることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ)</p> <p>→俳句で使われている語句の意味を理解したり、豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりしている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、俳句の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ)</li> <li>→語句の選び方や表現のしかたに着目して俳句を読み、筆者の評価のしかたを捉えている。</li> <li>・「書くこと」において、表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫している。(B(1)ウ)</li> <li>→自分の思いや考えがわかりやすく伝わるように、語句や表現を工夫して俳句を創作している。</li> </ul> <p>【態】進んで表現のしかたなどを評価し、学習課題に沿って鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。</p>
7	<p>言葉の釣り糸を垂らす</p>	2	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を調べる。</li> <li>→<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">二次元コード</span>「漢字の練習」</li> </ul> <p>2 題名の意味を捉える。(課題1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「言葉の釣り糸を垂らす」とはどうすることで、それによってどんな効果があるかを、まとめる。</li> </ul> <p>3 筆者のものの見方や考え方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の例を参考に、「言葉の釣り糸」を垂らす「実験」を行</li> </ul>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ)</p> <p>→文章中の語句・表現から、印象に残ったものや、よいと思ったものを挙げ、その理由や効果について考えている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)</p> <p>→筆者の「書く」ことに対する考えについて、自分の記憶や経験を踏まえながら考えている。</p> <p>【態】筆者のものの見方や考え方を積極的に読み取り、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。</p>

			<p>★文章を読み、実生活への生かし方を考える。 (思・判・表C(2)ウ)</p>	<p>うことで引き出された記憶や考えを、200字程度でまとめる。 (課題2-①)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者は、「書く」ことを、どのような行為だと考えているかについて、「実験」をしてわかったことや、最後の一文を踏まえて、グループで話し合う。(課題2-②)</li> </ul> <p>4 文章を読んでよいと思ったところを話し合う。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者のものの見方・考え方や、その伝え方、表現のしかたにおいて、よいと思ったところを話し合う。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が文章の中で用いた語句・表現の中で、印象に残ったものを挙げる。</li> <li>・筆者のものの見方・考え方に対する自分の考えは、「実験」の前後でどのように変化したか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・今後、文章を書くときに取り入れてみたいと感じた、筆者の提案や考え方を挙げる。</li> </ul>	
7	言葉 2 和語・漢語・外来語	2	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けられることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 P72 導入の例を基に、和語・漢語・外来語の表現を比較し、受ける印象の違いについて考える。</p> <p>2 教材文を読み、和語・漢語・外来語・混種語について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例を参照しつつ、それぞれの特徴を理解する。</li> </ul> <p>・P73「生活に生かす」を読み、和語・漢語・外来語をどのように使い分けるのがよいか、生活の中の具体的な場面を想定して考える。</p> <p>3 言葉の変化について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P74「語彙を豊かに」の教材文を読み、「時代による言葉の変化」と「世代による言葉の変化」があることを知る。</li> <li>・これまでに読んだ本や世代の異なる人との会話などを手がかりにして、時代や世代によって意味や使い方が異なる言葉の例を探し、話し合う。</li> </ul> <p>4 相手に合わせて、言葉を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話す相手を自由に設定し、P75 上段にある文章をわかりやすく書き換える。</li> <li>・書き換えた文章を伝え合い、自分の文章を振り返る。</li> <li>・クラス全体で適切な言い方について確認する。</li> </ul>	<p><b>【知・技】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けられることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</li> <li>→和語・漢語・外来語について理解し、相手や場面に応じて適切に使い分けている。</li> <li>・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。(3)ウ)</li> <li>→古典や近代文学、年配の人との会話の例などの中から、自分たちの世代とは異なる言葉の使い方を見つけている。</li> </ul> <p><b>【態】</b>進んで和語・漢語・外来語を理解し、今までの学習を生かして、相手や場面に応じて適切に使い分けようとしている。また、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて進んで理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じた言葉を選んで伝えようとしている。</p>
7	実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう	2	<p>◎話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れている</p>	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 P76「やってみよう」①に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下段の <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A</span>・<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">B</span> から、青田市では、それぞれの物をどのように分別したらよいか、読み取る。</li> </ul> <p>2 P77「やってみよう」②に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループを作り、実用的な文章には、他にどんなものがあるか、具体的な例を身の回りから挙げる。</li> <li>・実用的な文章を読むときには、どんなことに注目して読めば</li> </ul>	<p><b>【知・技】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)ウ)</li> <li>→示された資料や身の回りの実用的な文章から、表現の特徴について理解を深めている。</li> <li>・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</li> <li>→複数の資料を比較し、共通点や相違点を捉え、情報と情報との関係について理解を深めている。</li> <li>・情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ)</li> </ul>

			<p>ものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p> <p>★実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える。(思・判・表C(2)ウ)</p> <p>★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>よいか、考えて話し合う。</p> <p>3 P78-81の報道文 <b>A</b>・<b>B</b> を通読し、P82「やってみよう」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>示された観点を参考に、二つの記事を比べ、表に整理する。</li> <li>表に整理したことを基に、記事について気づいたことや考えたことを300字程度でまとめる。</li> <li>報道文を読むときに気をつけるとよいことについて考える。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実用的な文章を適切に読み取るには、どのようなことに注意するとよいか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>報道文には、発信者の立場や意図が反映されていることを踏まえて、自分が今後、報道文を読む際に気をつけたいことをグループで伝え合う。</li> </ul>	<p>→発信者の立場や意図を踏まえ、情報の信頼性や妥当性を吟味している。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア)</li> <li>→実用的な文章の特徴を踏まえ、目的に応じて情報を読み取っている。</li> <li>「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)</li> <li>→事実や事例の選び方、取り上げ方や、語句・写真の選び方、レイアウトなどに着目して批判的に記事を読み、書き手の意図について考えている。</li> <li>「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</li> <li>→観点ごとに情報を整理し、情報の客観性や信頼性を確認している。</li> </ul> <p><b>【態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の種類を踏まえて、積極的に情報を読み取り、学習課題に沿って実生活への生かし方を考えようとしている。</li> <li>文章の構成や論理の展開、表現のしかたなどを進んで捉え、学習課題に沿って報道文を比較し、自分の考えをまとめようとしている。</li> </ul>
7	<p>「私の一冊」を探しにいこう</p> <p>羊と鋼の森</p> <p>読書案内 本の世界を広げよう</p> <p>読書コラム</p> <p>ためになるってどんなこと？</p>	1	<p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。</p>	<p>1 本文を読み、本のさまざまな探し方について知る。</p> <p>2 学校図書館やインターネットを活用するなど、探し方を工夫して、興味をもてそうな本を探す。</p> <p>3 見つけた本を夏休みなどを利用して読む。</p>	<p><b>【知・技】</b>自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ)</p> <p>→本のさまざまな探し方について理解し、今後の読書生活への生かし方を考えている。</p> <p><b>【思・判・表】</b>「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>→登場人物の生き方、作品に描かれた時代、社会状況などの観点から、自分の考えを書評などにまとめている。</p> <p><b>【態】</b>進んで本の探し方について理解し、今までの学習を生かして本を選んだり読んだことを書評などにまとめたりしようとしている。</p>
9	<p>季節のしおり</p> <p>挨拶</p> <p>——原爆の写真によせて</p>	2	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>◎詩の構成や表現のしかたについて評価することができる。</p> <p>◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通</p>	<p>1 作品を通読し、当時の時代背景について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>注意する語句を調べる。</li> <li>作品ができた背景や時代背景を確認する。</li> </ul> <p>2 「顔」という表現を捉える。(学習①)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>詩の中で繰り返し出てくる「顔」が、それぞれどのような人の「顔」を表現しているのか考える。</li> </ul> <p>3 表現の効果を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第六連にある「午前八時一五分は／毎朝やってくる」という表現に込められた意味と、その効果を考える。(学習②-1)</li> </ul>	<p><b>【知・技】</b>理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ)</p> <p>→語句の辞書的な意味や語感を踏まえて、文脈の中での意味や効果を考えている。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」において、詩の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ)</li> <li>→詩に用いられている比喩や象徴的な表現の効果について、自分の考えをまとめている。</li> </ul>

			<p>して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。</p>	<p>・最終連に「やすらかに 美しく 油断していた。」とあるが、ここで使われている「油断」の意味とその効果について考える。(学習②-2)</p> <p>4 自分の意見を述べる。</p> <p>・作者は、この詩の中で、どのようなことを考え、伝えようとしたのか、現代社会の状況と重ね合わせながら、自分の意見を述べる。(学習③)</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・詩に使われている表現の効果について、考えたことを伝え合う。</p> <p>・詩に表現された内容について、感じたことや考えたことを文章にまとめる。</p>	<p>・「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>→現代社会の状況と重ね合わせながら詩を読み深め、作者の思いや考えに対する自分の考えをまとめている。</p> <p>【態】詩の構成や表現のしかたを積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。</p>
9	故郷	8	<p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>★小説を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。</p>	<p>1 作品を通読し、作品の設定を捉える。</p> <p>・注意する語句・新出漢字を調べる。</p> <p>・作品の舞台や時代背景を確認する。</p> <p>・現在の場面と「私」の回想の場面を確認する。(学習①)</p> <p>・「私」と他の登場人物との関係を整理する。(学習①)</p> <p>2 場面や登場人物の設定に着目して読み取る。</p> <p>・「故郷の様子」、「ルントウ」、「ヤンおばさん」について、回想の場面と現在の場面とを比べて、描写がどのように変化しているかわかる部分を、それぞれ抜き出す。(学習②-1)</p> <p>・「ルントウ」と再会した場面で「私」が感じた「悲しむべき厚い壁」とは何か考える。(学習②-2)</p> <p>・最後の場面で「私」が抱く「希望」や、望む社会とはどのようなものか、「私」と「ルントウ」、「ホンル」と「シュイション」の関係などを踏まえて捉える。(学習②-3)</p> <p>・「私」の考え方について自分はどうか考えるか、話し合う。(学習②-4)</p> <p>3 作品を批評する。(学習③)</p> <p>・読み深めたことを踏まえ、作品のもつ特性や価値について批評する。</p> <p>・「学習の窓」などを参考に批評の観点を決め、本文や調べてわかった事実を根拠に論じたり、評価したりする。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <p>・友達の批評を読んで、自分の捉え方との共通点や相違点などを基に、考えが深まったことを発表する。</p>	<p>【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ)</p> <p>→文学作品を読むことが、自分の人生や自分が生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)</p> <p>→文章を批判的に読み、観点を明確にして、作品のもつ特性や価値を批評している。</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>→「私」が考える「希望」や望む社会の在り方などについてどう考えるか、根拠に基づいて自分の意見を述べている。</p> <p>【態】文章を批判的に読むことに積極的に取り組み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたりしようとしている。</p>

				・今後、小説を読んで自分の考えをもつために、大切にしたい観点を挙げる。	
9	[推敲] 論理の展開を整える	2	<p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 P120上段の文章を通読したうえで、語句・表現や叙述のしかたを見直し、文章を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>示された三つの観点を参考に、それぞれの箇所を書き改める。</li> </ul> <p>2 目的や読み手に合わせて、表現や論理の展開を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>示された四つの観点を参考に、課題に取り組む。</li> </ul> <p>3 読み手からの助言を踏まえて、確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書き改めた文章を友達と読み合い、よい点や改善点を出し合う。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後、自分で書いた文章の論理の展開を整えるときに生かしたいと思った点を挙げる。</li> </ul>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p> <p>→「事実と意見」「意見と根拠」「具体と抽象」など情報と情報との関係に着目しながら、課題に取り組んでいる。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。(B(1)エ)</li> <li>→目的や意図に応じた表現になっているかを確かめて、文章を推敲している。</li> <li>「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ)</li> <li>→論理の展開について、読み手からの助言を踏まえて自分の文章のよい点や改善点を確かめ、必要に応じて整えている。</li> </ul> <p>【態】目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く確認して推敲し、読み手からの助言や、情報と情報との関係についての知識を生かして、書き改めようとしている。</p>
9	言葉3 慣用句・ことわざ・故事成語	2	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。</p>	<p>1 導入の例のような、一まとまりで決まった意味をもつ言葉をできるだけたくさん書き出す。</p> <p>2 教材文を読み、慣用句・ことわざ・故事成語の特徴や性質について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>慣用句を使って短文を作る。</li> <li>ことわざや故事成語の意味を調べる。</li> </ul> <p>・P118「生活に生かす」に挙げられている慣用句やことわざの誤用の例を、生活を振り返って探してみる。</p> <p>3 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</p> <p>→慣用句を使って短文を作ったり、ことわざや故事成語の意味や使い方を調べたりしている。</p> <p>【態】慣用句やことわざ、故事成語の意味や使い方について積極的に調べて理解し、今までの学習を生かして短文を作ろうとしている。</p>
10	聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る	2	<p>◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 対談の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3～4人でグループを組み、話し手(1人)、聞き手(1人)、聴衆(1～2人)を決め、役割ごとに準備をする。</li> </ul> <p>2 対談を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1回5～7分程度で対談を行う。役割は順に交代する。</li> <li>話題を選んだ意図や具体的なエピソードを聞き出して、相手の内面に迫る。</li> <li>自分の感想や体験を交えることで、さらに話を引き出す。</li> <li>聴衆も楽しめるように意識する。</li> <li>質問に答える形で話す。特に話したい内容について質問されたら、そのことを伝えてから話す。</li> </ul> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話し手、聞き手、聴衆、それぞれの役割から、対談を通して気づいたことや考えたことを出し合う。</li> </ul>	<p>【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。(1)エ)</p> <p>→対談の話し手や聞き手として、適切な言葉遣いを選択している。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)エ)</p> <p>→話の展開を予測しながら聞き、対談の中で、相手の思いに迫ることができた質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えている。</p> <p>【態】話の展開を予測しながら積極的に聞き、今までの学習を生かして対談しようとしている。</p>
10	漢字2 漢字の造語力	1	◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その	1 導入の文章を読み、新しい言葉が考え出された経緯を知る。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字

			<p>他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>2 教材文を読み、「翻訳語」と「新しい語」の側面から漢字の造語力について知る。</p> <p>3 練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。</p>	<p>の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア)</p> <p>→漢字の造語力を意識しながら、漢字の意味を理解し、読んだり書いたりしている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
10	聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る	1	<p>◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 対談の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3～4人でグループを組み、話し手(1人)、聞き手(1人)、聴衆(1～2人)を決め、役割ごとに準備をする。</li> </ul> <p>2 対談を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回5～7分程度で対談を行う。役割は順に交代する。</li> <li>・話題を選んだ意図や具体的なエピソードを聞き出して、相手の内面に迫る。</li> <li>・自分の感想や体験を交えることで、さらに話を引き出す。</li> <li>・聴衆も楽しめるように意識する。</li> <li>・質問に答える形で話す。特に話したい内容について質問されたら、そのことを伝えてから話す。</li> </ul> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手、聞き手、聴衆、それぞれの役割から、対談を通して気づいたことや考えたことを出し合う。</li> </ul>	<p>【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。((1)エ)</p> <p>→対談の話し手や聞き手として、適切な言葉遣いを選択している。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)エ)</p> <p>→話の展開を予測しながら聞き、対談の中で、相手の思いに迫ることができた質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えている。</p> <p>【態】話の展開を予測しながら積極的に聞き、今までの学習を生かして対談しようとしている。</p>
10	複数の意見を読んで、考えよう ——正解が一つに決まらない課題と向き合う	3	<p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★論説の文章を比較して読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 3人の筆者の提言を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を調べる。</li> </ul> <p>2 文章の要旨を捉える。(課題1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人の筆者が、環境問題を解決するために、今、何が必要だと考えているか、それぞれの提言の要旨をまとめる。</li> </ul> <p>3 文章を比較して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点を決めて文章を比較し、それぞれの特徴を表にまとめる。(課題2-①)</li> <li>・提言の内容、論理の展開、表現のしかたなどを、自分の経験や読書などで得た知識と照合して吟味し、評価する。(課題2-②)</li> </ul> <p>4 グループで討論し、提言に対する評価を基に、自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三つの提言をどう評価するか、グループで討論する。(課題2-③)</li> <li>・討論を踏まえ、自分の考えをまとめる。(課題3)</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を吟味するとき、読書を通して得た知識をどのように役立てたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・文章を批判的に読み、評価するとき留意すべきことは何か、考える。</li> <li>・今回身につけた文章の読み方の中で、次に論説を読むときに役立ちそうだと思うものを書き留める。</li> </ul>	<p>【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ)</p> <p>→一つの課題に対して書かれた複数の文章を読み比べることが、自分の生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)</li> <li>→観点を決めて文章を比較したり、自分の知識や経験と照合したりしながら批判的に読み、筆者のものの見方や考え方について考えている。</li> <li>・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ)</li> <li>→提言の内容、論理の展開、表現のしかたなどについて、自分の知識や経験と結び付けたり、討論したりして、評価している。</li> </ul> <p>【態】三つの文章を批判的に読むことに粘り強く取り組み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。</p>

11	<p>考えを効果的に伝えよう</p> <p>多角的に分析して批評文を書く</p>	5	<p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 題材を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会で見聞きしたことや、新聞、テレビなどのメディアを通して知ったことの中から、関心のある事柄を選ぶ。</li> </ul> <p>2 観点を決めて分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点を決めて問いを立て、考えを深める。</li> </ul> <p>3 構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをわかりやすく伝えるための論理展開や表現のしかたを考える。</li> </ul> <p>4 批評文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・600～800字程度でまとめる。</li> </ul> <p>5 友達と文章を読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・批評に有効な観点や表現、論理展開などについて話し合い、互いに助言する。</li> </ul> <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような具体例を挙げ、どのように自分の考えと結び付けたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・自分の考えをわかりやすく伝えるために、どのような工夫をしたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・友達の文章を読み、物事を批評するときに、今後参考にしたいと思った分析の観点や表現の工夫を挙げる。</li> </ul>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p> <p>→「意見と根拠」「具体と抽象」など、情報と情報との関係に関する知識を生かして論理の展開を考えている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</li> <li>→文体や表現技法などを検討したり、自分の意見を支える根拠となる資料を引用したりして、文章表現を工夫している。</li> <li>・「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ)</li> <li>→読み手からの助言を踏まえて、自分の批評文における批評の観点や表現、論理の展開などのよい点や改善点を見いだしている。</li> </ul> <p>【態】自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように、粘り強く工夫し、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。</p>
11	<p>漢字に親しもう3</p> <p>文法への扉2</p> <p>「ない」の違いがわからない?</p> <p>文法2 文法のまとめ</p>	1	<p>◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>◎単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について理解することができる。(知・技1年(1)エ、2年(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p> <p>3 P141「文法への扉2」を読み、「ない」の文法上の違いを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ない」という語が意味や用法によって、形容詞、形容詞の一部、助動詞に分類されることを知る。</li> </ul> <p>4 P233「文法2 文法のまとめ」にある文法の問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間の文法の学習を思い出し、文の組み立てや単語の種類と働きなどについて復習する。</li> </ul>	<p>【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア)</p> <p>→文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。</p> <p>【態】今までに学習した知識を生かして、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p> <p>【知・技】単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について理解している。(1年(1)エ、2年(1)オ)</p> <p>→言葉の単位、文の組み立て、単語の分類、自立語、用言の活用、付属語など、3年間で学習した文法の内容を理解している。</p> <p>【態】単語の類別や活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について進んで理解し、今までの学習を生かして課題に取り組もうとしている。</p>
11	<p>聴きひたる 初恋</p>	2	<p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通</p>	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 朗読音声を聴き、言葉の響きやリズムを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近代に作られた文語定型詩を聴き、響きやリズムなどについ</li> </ul>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</p> <p>→語句や表現に着目したり、言葉の響きやリズムを味わったりしながら詩に描かれた情景や心情を想像している。</p>

			して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	て気づいたことを話し合う。 2 語句の意味や表現に込められた作者の思いを読み取り、感じたことを発表し合う。 ・詩に描かれた情景と詩の中の人物の心情を想像する。	【態】進んで語感を磨き、今までの学習を生かして作品を読んだり自分の考えを述べたりしようとしている。
11	和歌の世界 音読を楽しむ 古今和歌集 仮名序	1	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1 P146「和歌の世界」を読む。 ・「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」について興味をもち、三大和歌集についての特徴や歴史的背景などをおおまかに捉える。 P148「古今和歌集 仮名序」冒頭部分を朗読し、作者の思いを想像する。 ・歴史的仮名遣いに気をつけて朗読し、古文の言葉の響きやリズムを味わう。	【知・技】歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア →「和歌の世界」と「古今和歌集 仮名序」を読み、三つの歌集の特徴や歴史的背景、和歌に対する古人の思いを捉えている。 【態】進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
12	君待つと ——万葉・古今・新古今	2	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎和歌の表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★和歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 歴史的背景を捉える。(課題1) 2 和歌の表現について話し合う。 ・声に出して和歌を読み、そこに詠まれた情景や心情を、現代語訳を基に想像する。(課題2-①) 3 表現のしかたについて評価する。(課題3) ・和歌を1首選び、表現のしかたに着目して自分の評価を短くまとめる。 4 学習を振り返る。 ・和歌の時代に生きた人々と現代の私たちの共通点・相違点は何か、自分の言葉でまとめる。 ・どのような表現のしかたに着目して和歌を評価したか、自分の言葉でまとめる。 ・友達の考えを聞いて新たに気づいた和歌の魅力を挙げる。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア →三つの歌集の歌を音読したり、比較したりして、そこに詠まれた情景や心情を想像している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ →自分が注目した表現を引用しながら、和歌を評価している。 【思・判・表】「読むこと」において、和歌の表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →三つの歌集に収められた和歌を比較し、特徴的な表現やその効果について、評価している。 【態】進んで和歌の表現のしかたについて評価し、学習の見通しをもって自分の評価を書こうとしている。
12	夏草 ——「おくのほそ道」から	3	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★古典の文章を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を声に出して読む。(課題1) ・俳句と地の文から成る構成の効果に気づき、芭蕉の思いを想像しながら全文を朗読する。 2 芭蕉のものの見方や感じ方を読み取る。 ・芭蕉の「旅」についての考えが読み取れる部分を抜き出して、現代の旅がもつ意味と比べる。(課題2-①) ・芭蕉が高館や光堂で何を見て何を感じたのかを考える。(課題2-②) 3 心に響く俳句について発表する。(課題3) ・自分の心に響く俳句を1句選び、その理由や、どのように心に響いたのかについて発表し合う。 4 学習を振り返る。 ・歴史的背景に注意して読むことで、その場面への理解や印象にどのような変化があったか、自分の言葉でまとめる。 ・作者のものの見方や感じ方について考えたことは何か、自分の言葉でまとめる。 ・友達の発表の中で、印象に残ったものを挙げる。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア →歴史的背景に注意して作品を読み、作者が何に感動したのかを理解している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ →心に響いた俳句やその一節を引用し、その理由などを発表している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →現代の価値観と比較したり、作者が感動した歴史的背景を確かめたりして、作者のものの見方や感じ方について考えている。 【態】作者のものの見方や感じ方について進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして発表しようとしている。

12	つながる古典 古典名作選 [書く] 古典の言葉を引用し、メッセージを贈ろう	1	<p>◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ)</p> <p>◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	<p>1 P166「つながる古典」を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間で出会った古典作品のつながりを感じながら、学習を振り返る。</li> </ul> <p>2 P168「古典名作選」を朗読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気に入ったものがあればノートに書き出す。</li> </ul> <p>3 古典の言葉を引用し、メッセージを贈る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P170の手順を読み、これまで学習した古典の文章の中から、気に入った言葉や心に響いた言葉、誰かに贈ってみたい言葉を選ぶ。</li> <li>・どのような状況の、誰に、どのような目的でメッセージを贈るのかを考える。</li> <li>・自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、選んだ古典の言葉の意味と、伝えたい思いとの関連を意識してまとめる。</li> </ul> <p>4 文章を友達と読み合い、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の状況や自分の思いにふさわしい言葉や文章の種類を選択したか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫したか、自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア)</li> <li>→古典の名作の歴史的背景や後世への影響を知り、その一節を読んでいる。</li> <li>・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ)</li> <li>→古典の言葉を引用して、メッセージを書いている。</li> </ul> <p>【思・判・表】「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ)</p> <p>→自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、相手の状況を踏まえて構成を工夫してメッセージを書いている。</p> <p>【態】長く親しまれている言葉や古典の一節を進んで引用するなどし、今までの学習を生かしてメッセージを書こうとしている。</p>
12	それでも、言葉を	4	<p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★論説などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 本文を通読し、言葉に対する筆者の考えを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句を調べる。</li> <li>・納得したこと・共感したこと、わからないこと・疑問に感じたことなどの観点に沿って、本文に線や記号を書き込みながら読む。(課題1-①)</li> </ul> <p>2 筆者の見方・考え方に対する理解を深める。(課題2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで決めた課題について、言葉の意味を確かめたり、具体的な事例を挙げたりしながら話し合い、理解を深める。</li> </ul> <p>3 言葉との向き合い方について自分の意見をもつ。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が用いた言葉を使って自分の考えをまとめ、発表する。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p> <p>→抽象的な概念を表す語句について、言葉の意味を辞書などで確かめたり、具体的な事例を挙げたりしながら理解している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)</li> <li>→文章を多角的に検討したり、例証や反証を試みたりして、筆者の考えについて理解を深めている。</li> <li>・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</li> <li>→文章を批判的に読んだり話し合ったりすることを通して、言葉に対する自分の意見を確立している。</li> </ul> <p>【態】言葉や社会、人間などについて粘り強く自分の意見をまとめ、今までの学習を生かして理解したことや考えたことについて話し合ったり発表したりしようとしている。</p>
12	漢字3 漢字のまとめ 漢字に親しもう4	1	<p>1 二年生までに学習した漢字を復習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の部首、音訓、成り立ちや熟語の構成、送り仮名などを確認しながら問題に取り組む。</li> </ul> <p>◇同訓異字や同音異義の漢字を調べ、使い分けができるようにさせる。</p> <p>2 三年生で学習した漢字を復習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熟語の読み方、造語力などに気をつけながら問題に取り組む。</li> </ul> <p>◇漢字辞典や国語辞典などを使って調べさせる。</p> <p>◇慣用句・ことわざ・故事成語などの意味を調べさせる。</p> <p>3 P182「漢字に親しもう4」の問題に取り組む。</p>	<p>1 二年生までに学習した漢字を復習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の部首、音訓、成り立ちや熟語の構成、送り仮名などを確認しながら問題に取り組む。</li> </ul> <p>2 三年生で学習した漢字を復習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熟語の読み方、造語力などに気をつけながら問題に取り組む。</li> </ul> <p>3 P182「漢字に親しもう4」の問題に取り組む。</p>	<p>【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア)</p> <p>→漢字の組み立てと部首、音訓、成り立ち、熟語の構成、同じ訓・同じ音をもつ漢字、送り仮名、熟語の読み方、漢字の造語力など、3年間で学習した漢字の内容を理解している。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>

			◇熟語の構成、部首、漢字の音訓などの既習事項を思い出させる。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。		
12	[話し合い (進行)] 話し合いを効果的に進めよう	2	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを上げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 進行役の最後の発言に続く形で、参加者から出た意見を整理する。 ・黒板アートについての話し合いの様子を視聴し、課題に取り組む。 2 進行役の発言の効果を考える。 ・P183に挙げられた進行役の発言は、目的に即した話し合いをするうえで、どのような効果があったか、考える。 3 学習を振り返る。 ・話し合いを効果的に進めるための工夫を確かめる。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア →抽象化の技能を生かし、複数の発言の共通点を抽出し、結び付けてまとめている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを上げたり深めたりしている。(A(1)オ) →合意形成に向けた話し合いを効果的に進行するための工夫について考えている。 【態】積極的に進行の工夫とその効果を分析し、今までの学習を生かして話し合いの効果的な進め方について考えようとしている。
12	合意形成に向けて話し合おう 課題解決のために会議を開く	4	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを上げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 議題を決める。 ・地域社会や学校生活の中から課題を見つけ、クラスで一つ議題を決める。 2 グループで提案を考える。 ・ブレインストーミングでアイデアを出す。 ・グループごとに提案を一つに絞り込む。 3 全体会議を開く。 ・司会と書記を決め、クラスで話し合う。 ◇タブレット端末などを使用し、座標軸などで提案を可視化しながら整理させてもよい。 ◇話し合いで出た提案を思考ツールで評価し、クラスで共有させてもよい。 4 合意形成のポイントを振り返る。 ・グループやクラスでの話し合いを振り返り、合意形成のために必要なことや改善点を伝え合う。 ・どのような共通点を基に、複数の発言を抽象化したか、自分の言葉でまとめる。 ・互いの意見を生かして合意を形成する際に、どのような発言が効果的だったか、確かめる。 ・合意形成するために、自分が今後大切にしたいと思ったことを挙げる。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア →提案の根拠に着目して妥当性を吟味したり、複数の発言の共通点を基に抽象化してまとめたりしている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを上げたり深めたりしている。(A(1)オ) →合意形成に向けて納得できる結論を出すために、提案の意義や実現性を検討したり、互いの発言を生かしたりして話し合っている。 【態】合意形成に向けて粘り強く考えを上げたり深めたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
1	温かいスープ	2	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを上げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 時代背景や筆者の置かれた状況を捉えながら全文を通読する。 ・当時の状況がわかる語句や文に線を引き、筆者の思いを想像する。 2 筆者の考える「国際性」とは何かを読み取る。 ・「月末のオムレツの夜」のエピソードを読み、筆者とレストランの母子それぞれの思いを読み取る。 3 国際性について自分の考えをもち、伝え合う。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ →文章に表現された人と人との関係を通して、国際性とは何かを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを上げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →自分の考え方と作品に表現された考え方を比較して、「国際性」とは

			かう力、人間性等) ★随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	・筆者の考える「国際性」の基本とは何かを捉え、それについて自分の考えをもち、伝え合う。	何かについて、自分の考えをまとめている。 【態】人間、社会などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。
1	アラスカとの出会い	2	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★随筆を読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 筆者の生き方や考え方を読み取る。 ・一枚の写真との出会いが筆者の人生においてどのような意味をもっていたのか、読み取る。 ・電車から家族の団欒を見たときの経験から、筆者が何を伝えようとしているのか、読み取る。 3 筆者の生き方や考え方について話し合う。 ・筆者の生き方や考え方について、自分の考えをもち、話し合う。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ) →筆者の人生において、本との出会いがどのような意味をもっていたのかを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →文章から読み取った筆者のものの見方・考え方や、友達との交流を受けて、自分の生き方について考えをまとめている。 【態】人間、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。
1	律儀な桜	2	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・時系列に注意しながら、筆者が経験したこと、考えたことなどについて理解する。 2 人と自然、時とともに変わるもの、変わらないものに思いをはせる。 ・筆者のものの見方・考え方について、自分の考えをもつ	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ) →桜を巡る筆者の経験や考えを読み取ったり、読書が人と自然について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →自分の知識や経験と結び付けながら文章を読み、人と自然に対する自分の考えをもっている。 【態】人間、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして文章にまとめようとしている。
1	わたしを束ねないで	1	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。 ・新出漢字を調べる。 ・気になった言葉や表現上の特徴などを抜き出し、気づいたことを述べ合う。 2 作者の思いを読み取り、自分の可能性について考える。 ・詩に込めた作者の思いを想像し、現代に生きる自分たちの可能性について話し合う。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →選ばれた言葉の語感を基に、作者が詩に託したイメージを捉えている。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、社会と人間、自分の可能性について考えている。 【態】詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値や自分の可能性について考えをまとめようとしている。
2	初日 漢字に親しもう5	3	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。 ・これまでの詩の読解を振り返る。 ・気になった言葉や表現上の特徴などを抜き出し、気づいたことを述べ合う。 2 詩の中の言葉や表現から、描かれた情景や心情を捉え、その内容について話し合う。 ・詩に描かれた情景や作者の思いを想像し、その内容について話し合う。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →選ばれた言葉の語感を基に、作者が詩に託したイメージを捉えている。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、人間、社会、自然などについて考えている。 【態】詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を

			<p>★詩歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>3 P226「漢字に親しもう5」の練習問題に取り組む。</p> <p>・言葉の意味を辞書で確認しながら漢字を読んだり書いたりする。</p>	<p>生かして、作品の内容について話し合おうとしている。</p> <p><b>【知・技】</b>第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア)</p> <p>→音訓や部首、熟語の構成などに気をつけて、これまでに学習した漢字を読んだり書いたりしている。</p> <p><b>【態】</b>学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
3	三年間の歩みを振り返ろう	5	<p>◎話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p> <p>★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 テーマを決める。</p> <p>・印象に残っている学習を思い出し、自分にとっての三年間の学びを総括するテーマを考える。</p> <p>2 内容と構成を考える。</p> <p>・テーマを基に収録する記事を決め、それが効果的に伝わる文章の種類を選ぶ。</p> <p>・全体と構成を考える。</p> <p>3 三年間の学びをまとめる。</p> <p>4 グループで発表会を開く。</p> <p>・内容を紹介し、それと関連させて「これまで」と「これから」の学びについて発表する。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・文章の種類とその特徴に関する知識をどのように生かしたか、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・記事の内容を効果的に伝えるために、どのように構成を工夫したか、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・場の状況に応じて話すために、どのようなことに気をつけたか、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・友達の発表を聞いて、気づいたことや、さらに考えが深まったことを挙げる。</p>	<p><b>【知・技】</b>話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)ウ)</p> <p>→自分で設定したテーマと内容、目的に合う文章の種類を検討している。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)</p> <p>→自分が伝えたいことが効果的に伝わるように、場に応じて工夫しながら話している。</p> <p>・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ)</p> <p>→記事の内容を効果的に伝えるために、紙面と文章の構成を工夫している。</p> <p><b>【態】</b>粘り強く言葉を選んだり構成を工夫したりし、今までの学習を生かして、文章にまとめたり、友達の発表を聞いて質問したり評価したりしようとしている。</p>

\*大半の授業で映像や資料提示のため ICT を活用する。